

第4章 区長アンケート

1 調査の概要

(1) 調査の目的

八街市総合計画 2015 後期基本計画の策定に当たり、地域ごとの現状や課題、今後の八街市のまちづくりに対する意見を把握することを目的とする。

(2) 調査の実施概要

①調査項目

区の運営に関する課題、必要としている支援、生活環境に関する課題、地域間での連携・協力の実態とその意向、その他必要と思われる事項

②調査対象

行政区の長 39 人

③調査時期

発送日 7 月 13 日

締切日 8 月 21 日

④調査方法

郵送による調査票の配布、回収

⑤回収結果

配布数 39 団体

有効回収数 37 団体

有効回収率 94.9%

2 調査の結果

(1) 区について

問1 区の名称

あなたの区の名称を記入してください。

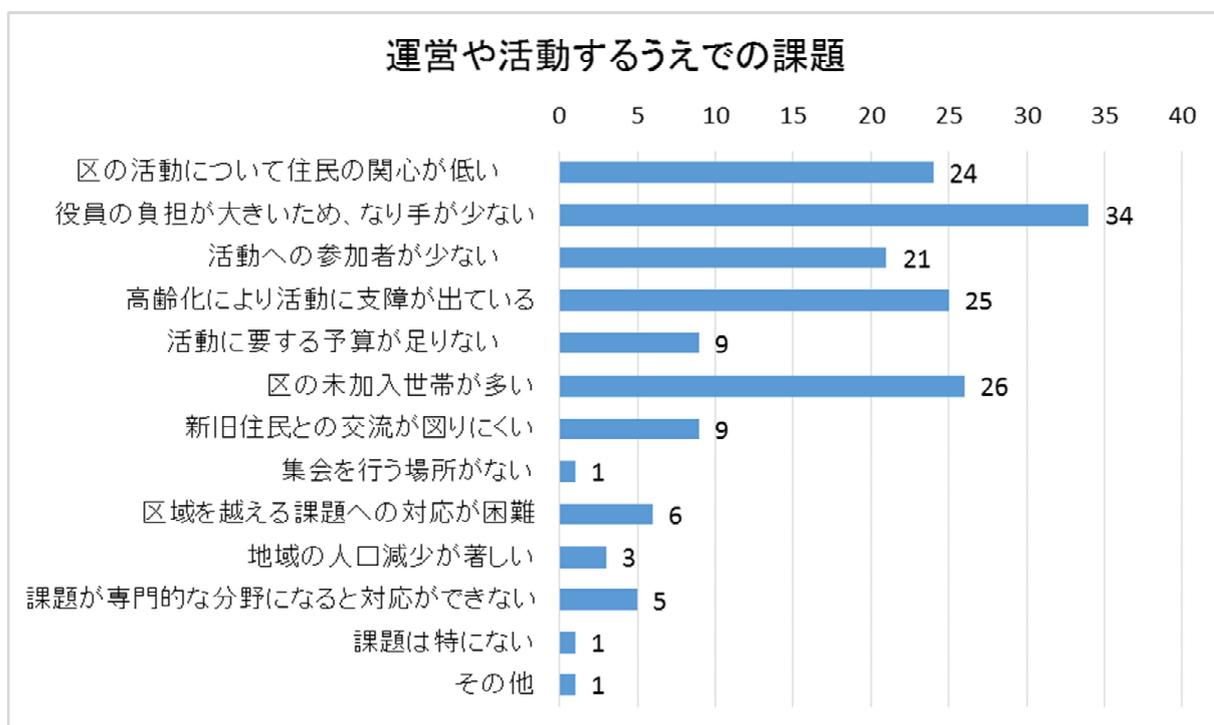
全体 39 区のうち、37 区から回答があった。

区名称の記入の有無	回答数
有	35
無	2
合計	37

問2 運営や活動するうえでの課題

あなたの区では、運営や活動で困っていること、課題となっていることはありますか。
(あてはまるものすべて○、N=37)

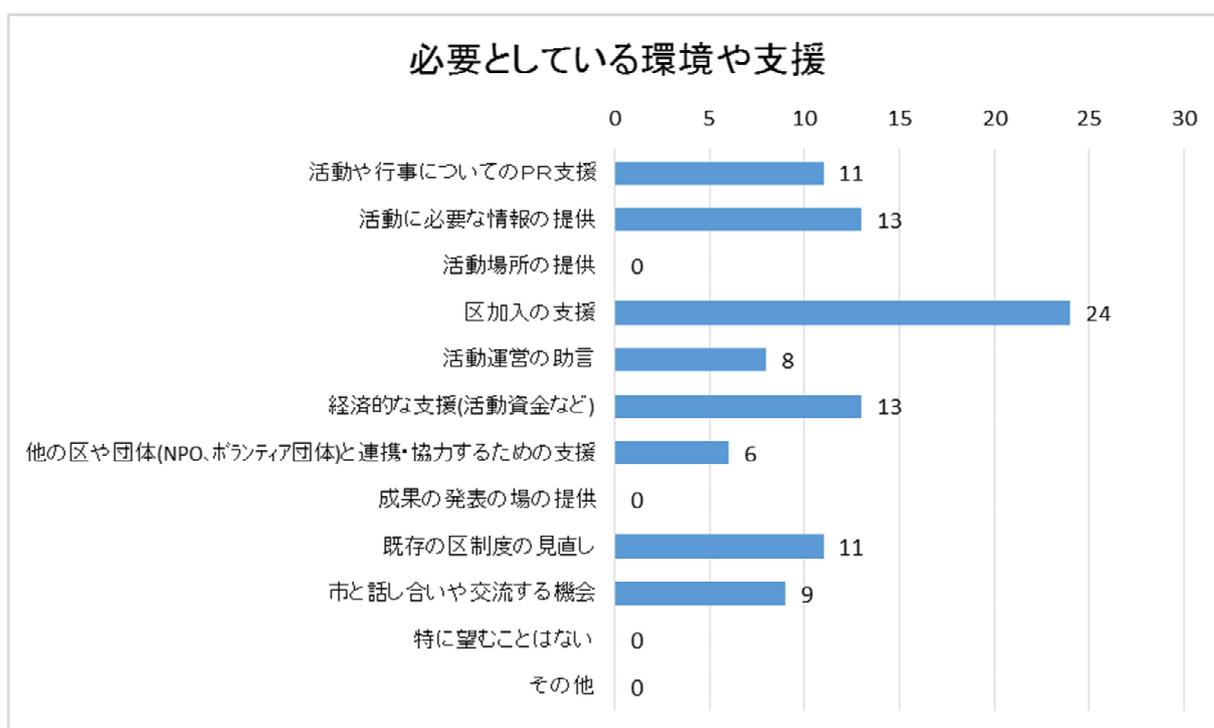
「役員の負担が大きいため、なり手が少ない」と回答した行政区が34団体と最も多く、次いで「区の未加入世帯が多い」26団体、「高齢化により活動に支障が出ている」25団体、「区の活動について住民の関心が低い」24団体となっている。



問3 必要としている環境や支援

あなたの区が、今後さらに活動内容を充実させるためには、どのような環境や支援が必要だと考えますか。(3つまで○、N=37)

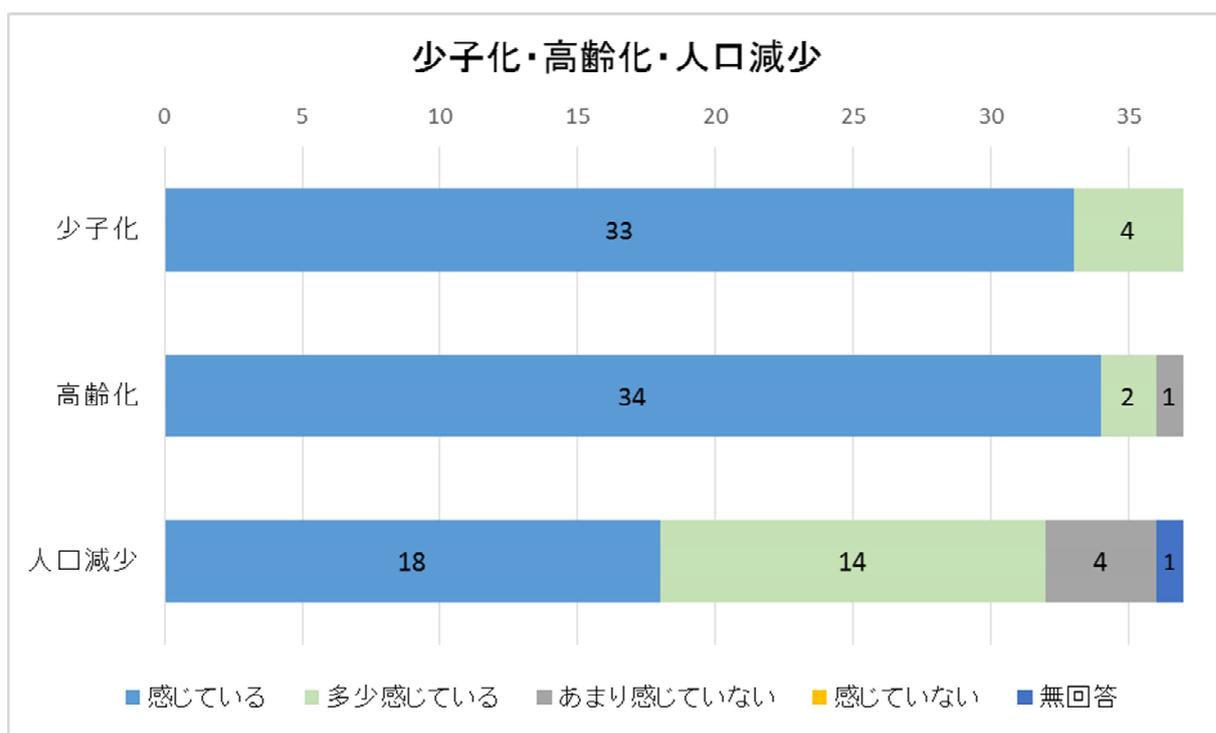
「区加入の支援」と回答した行政区が24団体と最も多く、次いで「活動に必要な情報の提供」、「経済的な支援(活動資金など)」13団体、「活動や行事についてのPR支援」、「既存の区制度の見直し」11団体となっている。



問4 少子化・高齢化・人口減少に対する実感

あなたの区では、少子化、高齢化、人口減少が進んでいると感じていますか。
(それぞれの項目ごと1つに○、N=37)

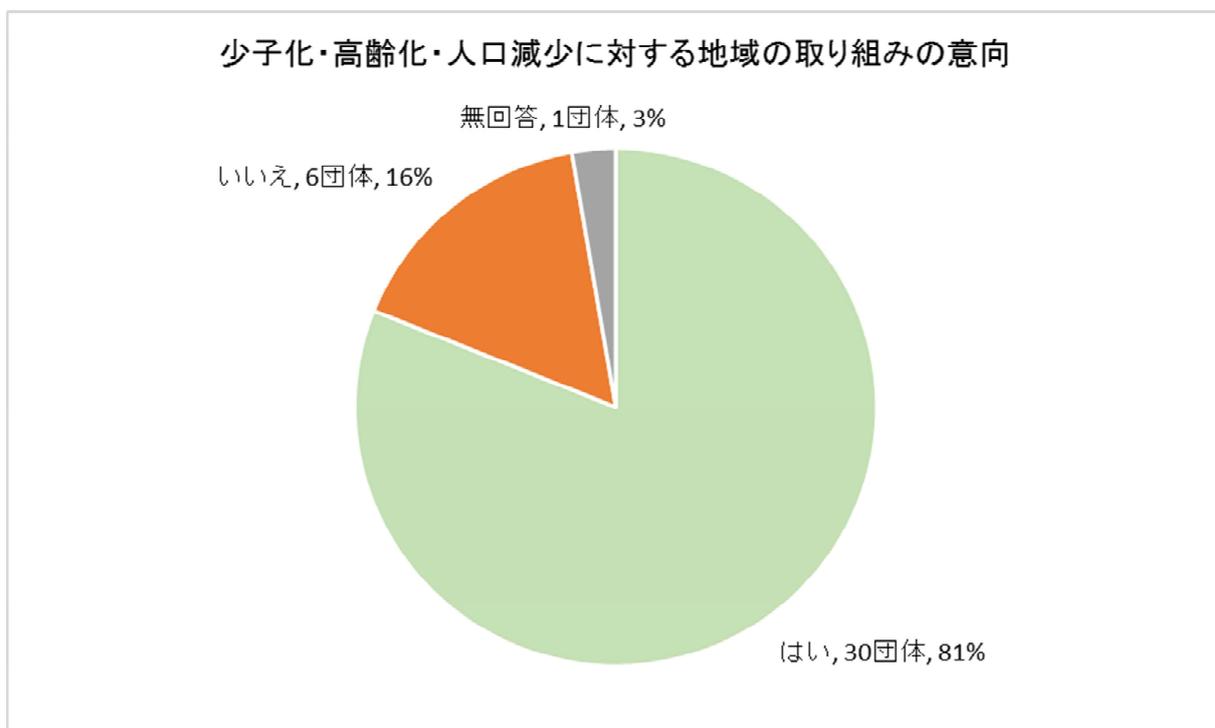
少子化、高齢化については多くの行政区が実感している。しかし、本市では、毎年700人程度人口が減っているという事実に対し、人口減少の実感は低い傾向にある。



問5 少子化・高齢化・人口減少に対する地域の取り組みの意向

あなたの区では、少子化・高齢化・人口減少について、行政による施策だけではなく、地域が主体となった取り組みが必要だと思いますか。(1つに○、N=37)

回答のあった行政区のうち、30 団体、構成比 81%が少子化・高齢化・人口減少について、行政による施策だけではなく、地域が主体となった取り組みが必要だという意識を持っている。

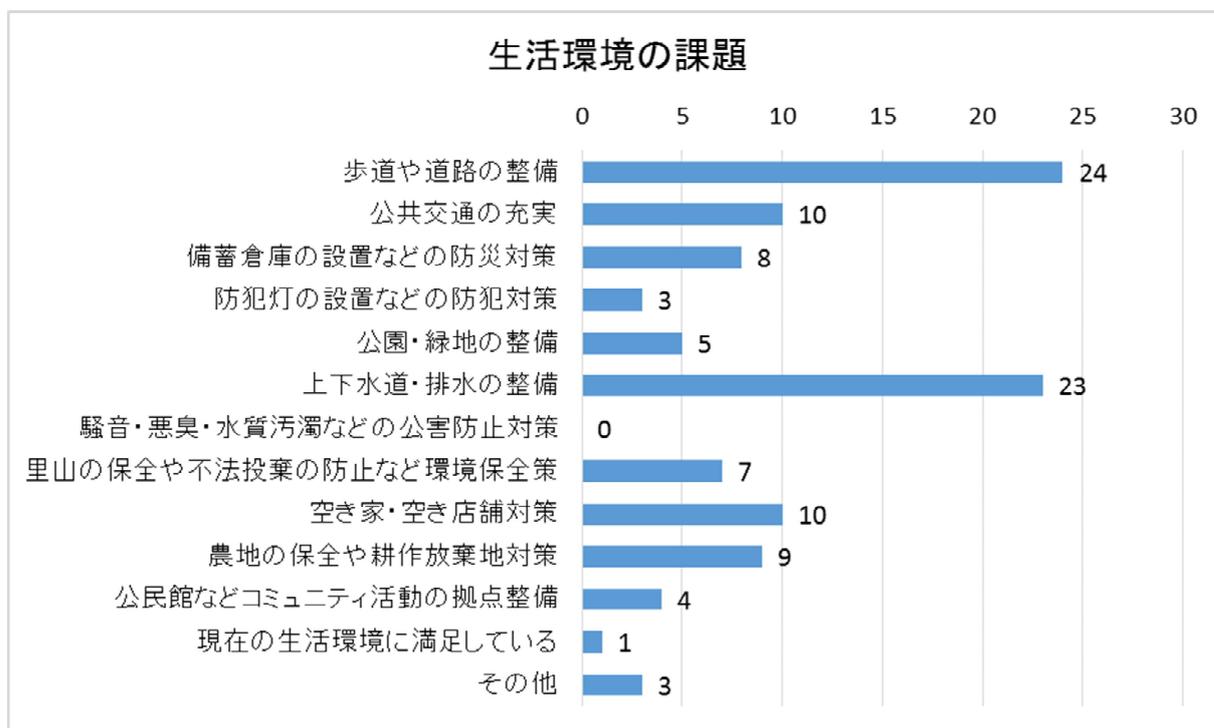


問6 生活環境の課題

あなたの区の生活環境について、課題となっていることはありますか。

(3つまで○、N=37)

「歩道や道路の整備」と回答した行政区が24団体と最も多く、次いで「上下水道・排水の整備」23団体、「公共交通の充実」、「空き家・空き店舗対策」10団体となっている。「現在の生活環境に満足している」とする行政区は1団体にとどまる。



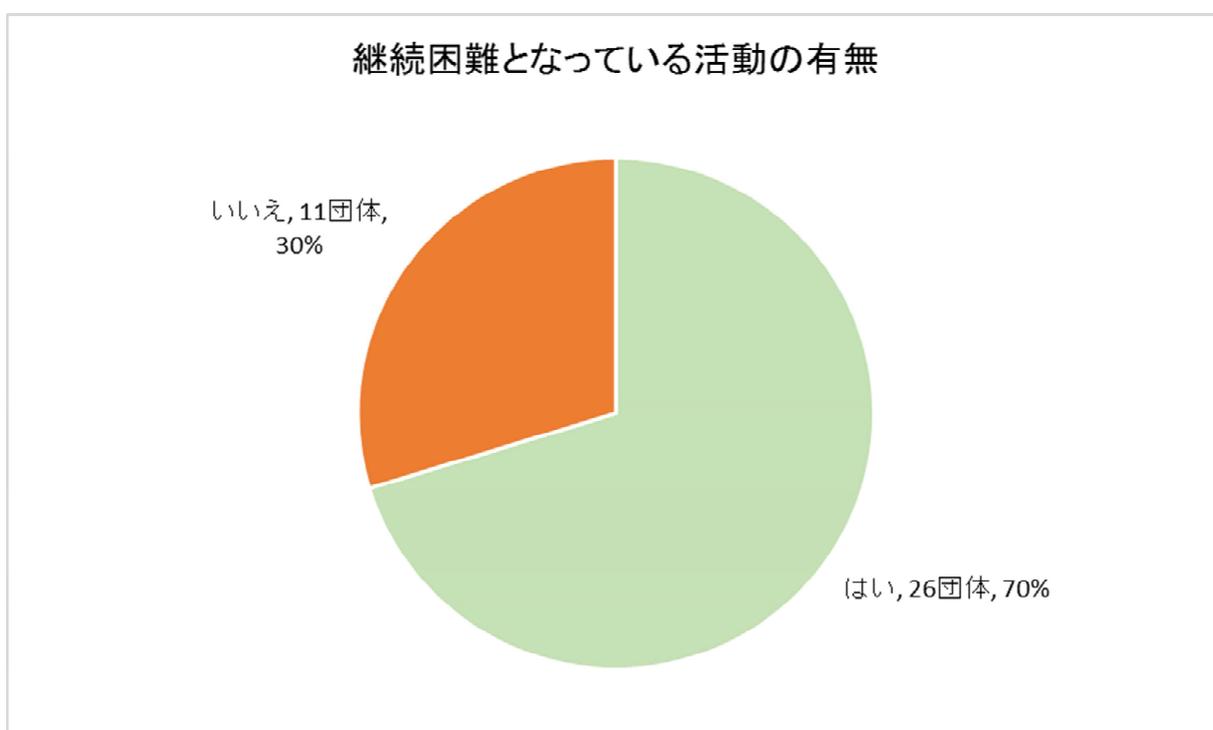
(2) 地域間の連携・協力について

問7 継続困難となっている活動の有無

あなたの区において、継続が困難となっている活動はありますか。

(1つに○、N=37)

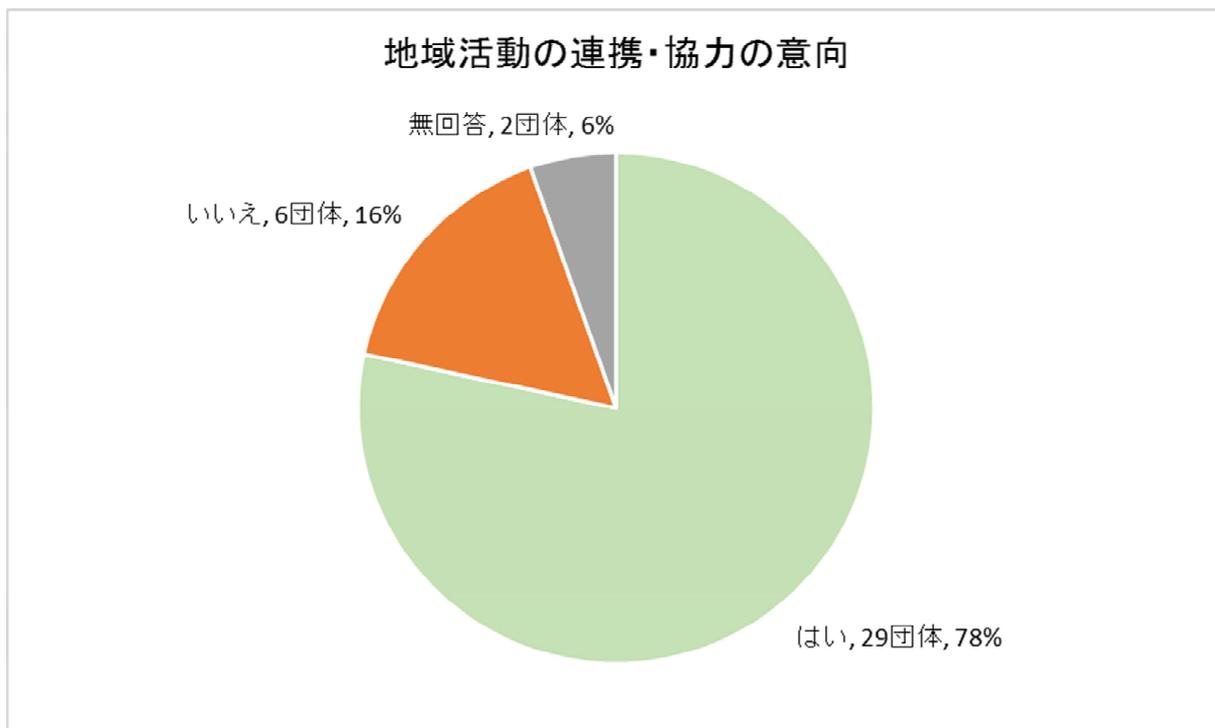
回答のあった行政区のうち、26団体、構成比70%が区単独では継続が困難となっている地域活動を抱えている。



問8 地域活動の連携・協力の意向

今後、自らの区だけでは困難と思われる地域活動について、近隣地区あるいは学区単位で協力して取り組みたいと考えますか。(1つに○、N=37)

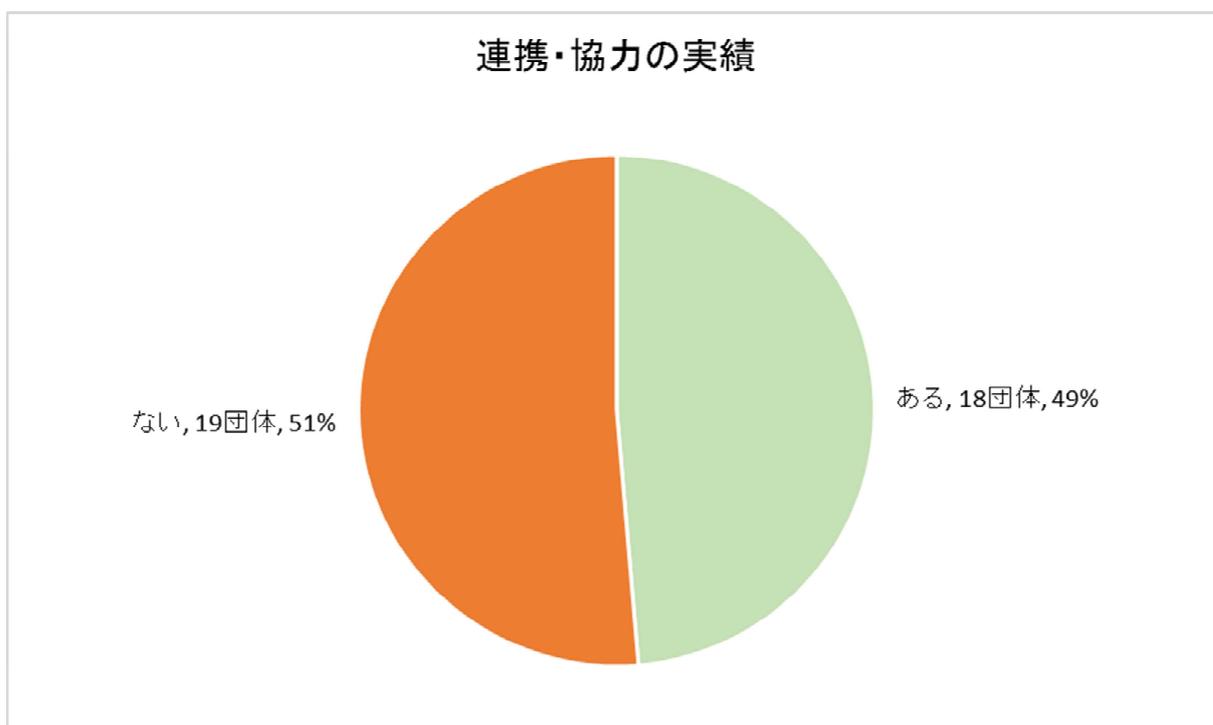
回答のあった行政区のうち、29団体、構成比78%が区単独では継続が困難となっている地域活動について、近隣地区や学区単位での連携・協力(活動単位の広域化)の必要性を感じている。



問9 地域活動の連携・協力の実績

あなたの区で、すでに近隣地区あるいは学区単位での連携・協力により、取り組んでいる地域活動はありますか。(1つに○、N=37)

回答のあった行政区のうち、18団体、構成比49%が近隣地区や学区単位での連携・協力(活動単位の広域化)により、地域活動に取り組んでいる実績がある。しかし、問8の地域活動の連携・協力の意向を示している29団体、構成比78%には及んでいない。

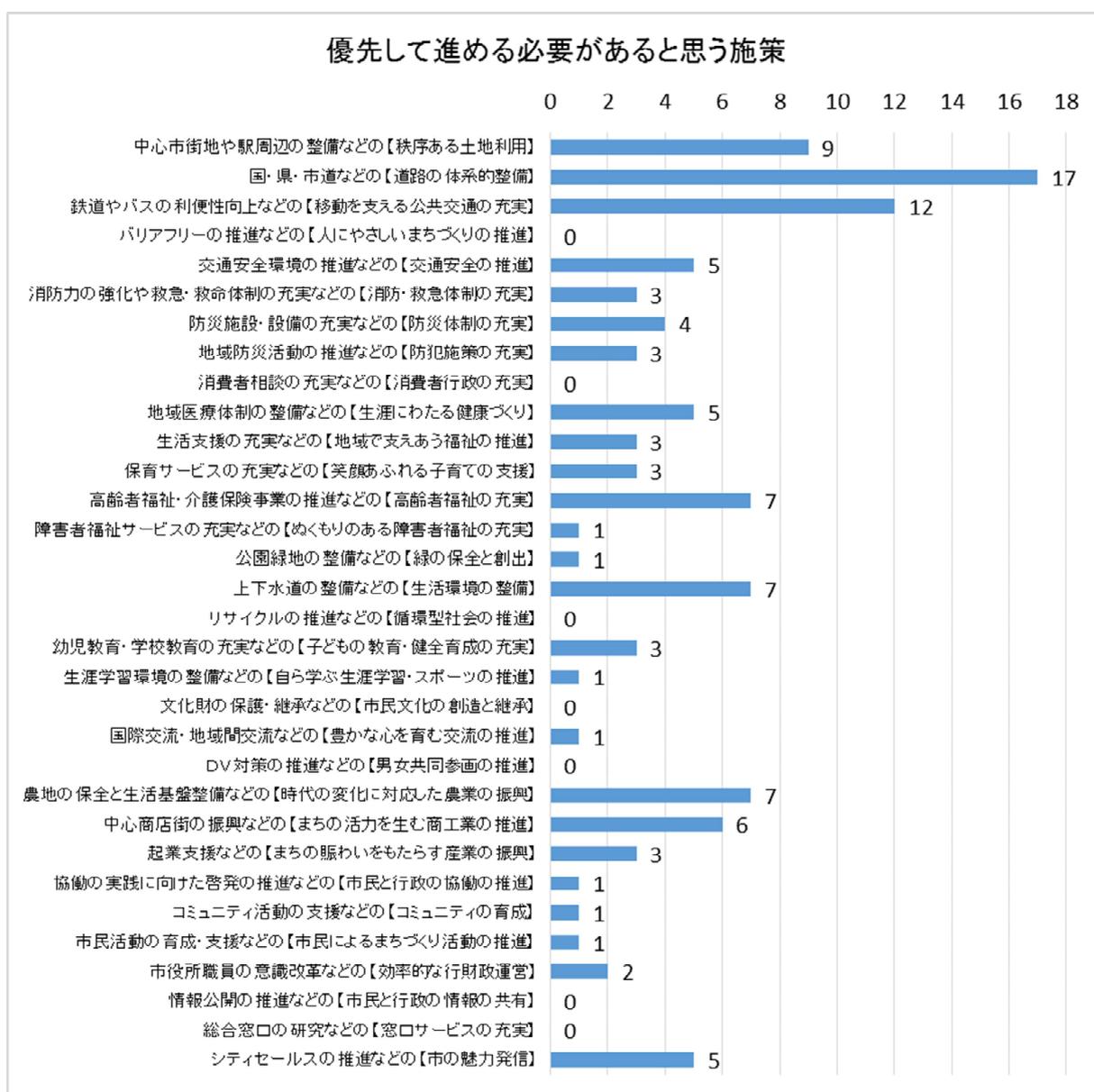


(3) 八街市の将来のまちづくりについて

問10 優先して進める必要があると思う施策

あなたの区は、八街市は今後どの分野に特に力を入れて、まちづくりを進めるべきだと考えますか。(3つまで○、N=72)

上位第3位まで見ると、第1位「国・県・市道などの【道路の体系的整備】」17団体、第2位「鉄道やバスの利便性向上などの【移動を支える公共交通の充実】」12団体、第3位「中心市街地や駅周辺の整備などの【秩序ある土地利用】」9団体となっている。



第5章 子育て世代アンケート

1 調査の概要

(1) 調査の目的

八街市総合計画 2015 後期基本計画の策定に当たり、子育て世代の視点から、八街市の現状、課題及び魅力あるまちづくりをするための施策の優先度を把握することを目的とする。

(2) 調査の実施概要

①調査項目

所属している学校の名称、子育てしやすいまちづくりのための取り組み、八街市の出産・子育て支援策についての認知度、その他必要と思われる事項

②調査対象

八街市 P T A 連絡協議会委員(市内小・中学校 P T A 会長、副会長) 51 人

③調査時期

発送日 7 月 10 日

締切日 7 月 31 日

④調査方法

配布については各小・中学校に依頼、回収については郵送

⑤回収結果

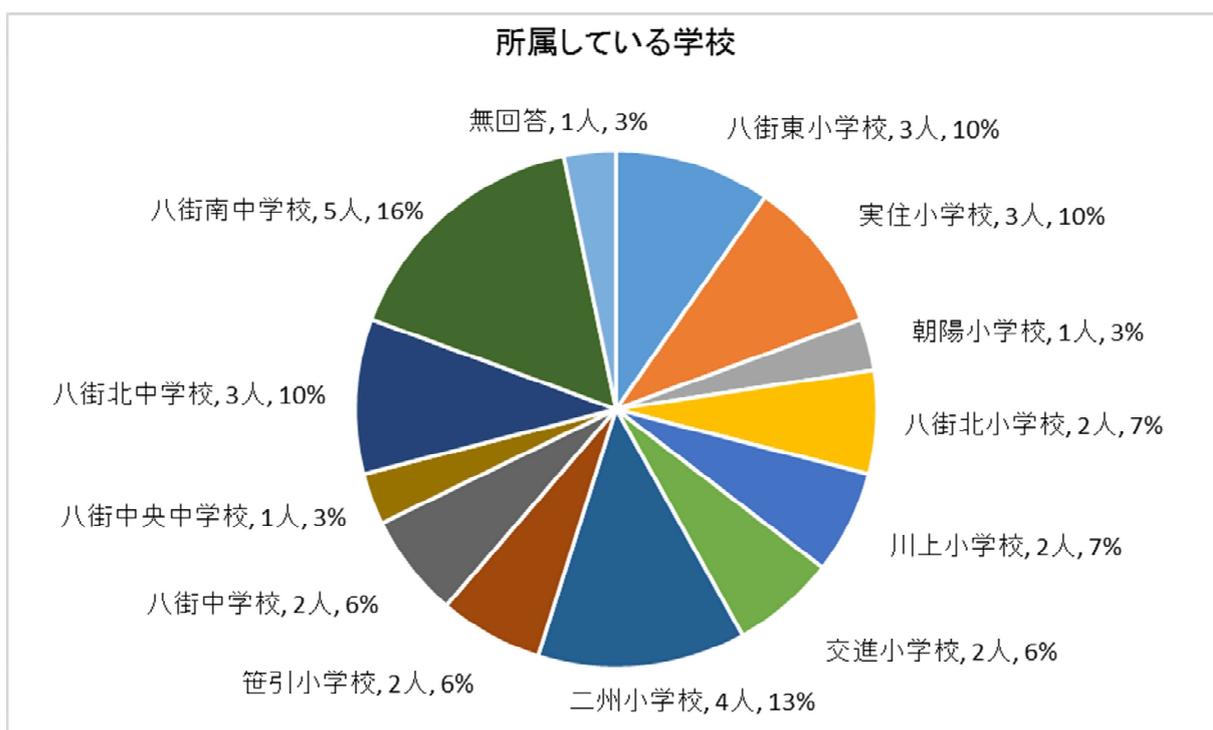
配布数	51 人
有効回収数	31 人
有効回収率	60.8%

2 調査の結果

問1 所属している学校

所属している学校の名称を記入してください (N=31)

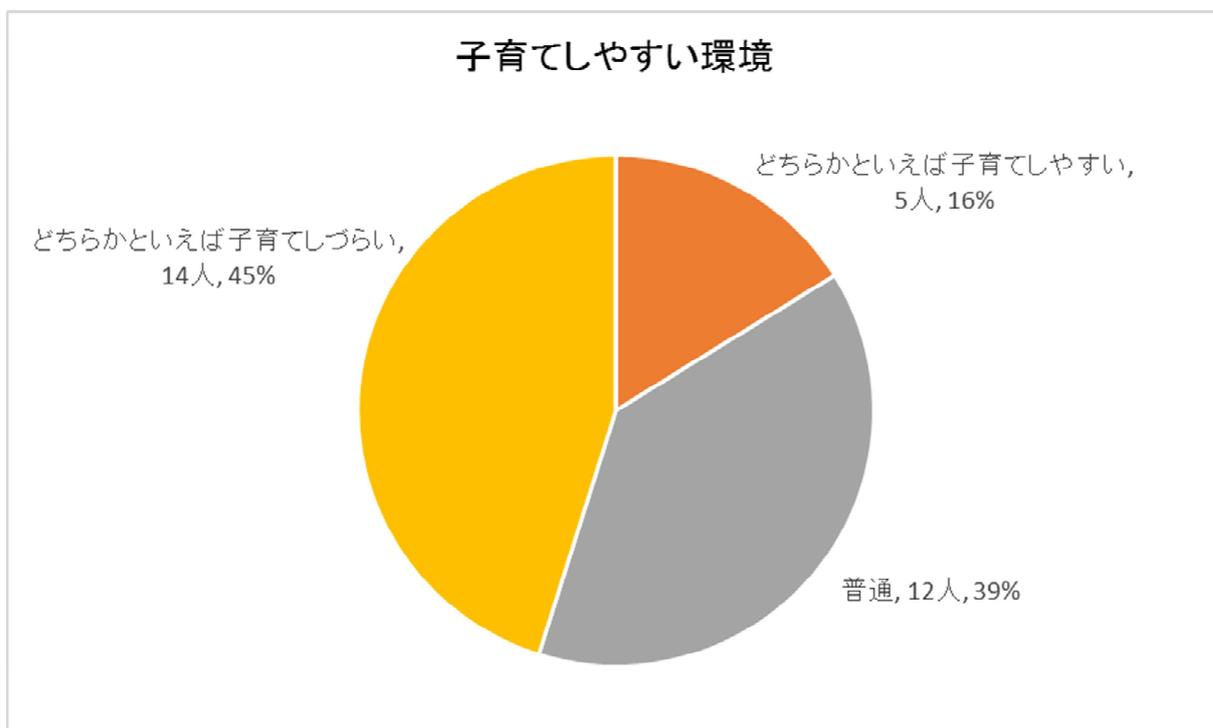
各学校からバランスよく回答があり、回答のない学校はなかった。



問2 子育てしやすい環境

八街市は、子育てしやすい環境のまちだとお考えですか。(1つに○、N=31)

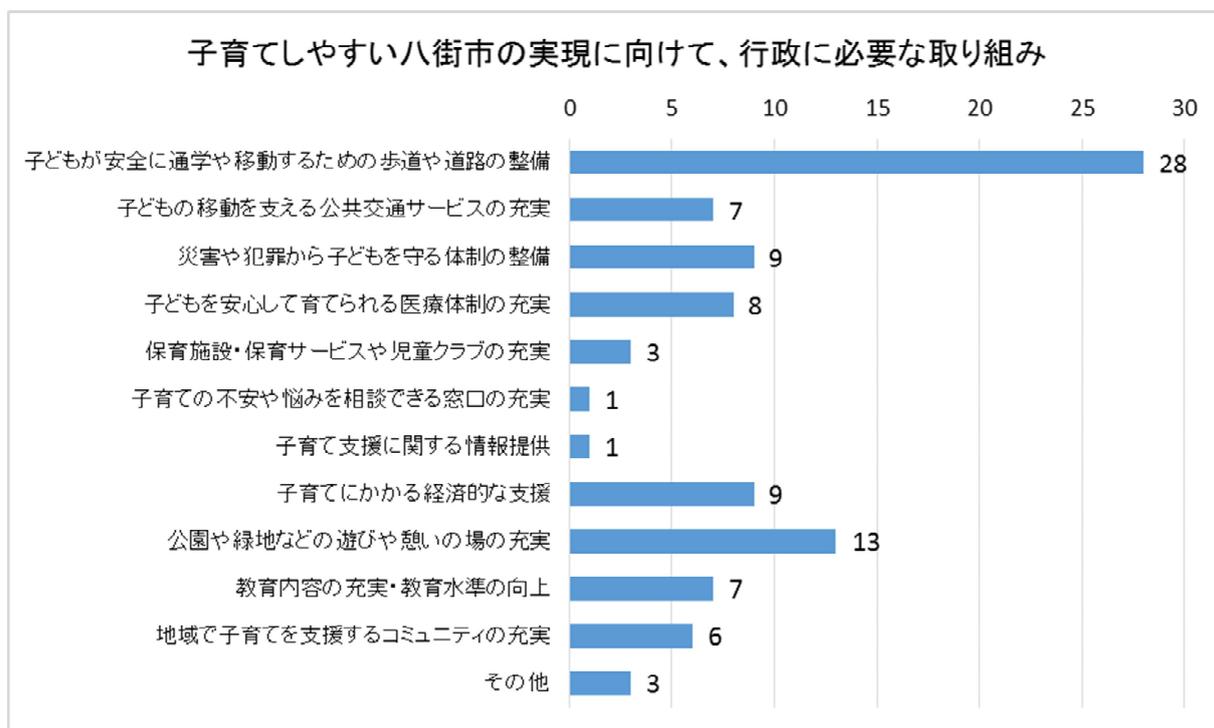
「どちらかといえば子育てしやすい」と回答した人が5人、構成比16%、「普通」と回答した人が12人、構成比39%、「どちらかといえば子育てしづらい」と回答した人が14人、構成比45%となっている。「とても子育てしやすい」、「まったく子育てしづらい」と回答した人はいなかった。



問3 子育てしやすい八街市の実現に向けて、行政に必要な取り組み

子育てしやすい八街市の実現に向けて、必要な行政の取り組みは何だとお考えですか。
(3つまで○、N=31)

「子どもが安全に通学や移動するための歩道や道路の整備」と回答した人が28人と最も多く、次いで「公園や緑地などの遊びや憩いの場の充実」13人、「犯罪や災害から子どもを守る体制の整備」、「子育てにかかる経済的な支援」9人となっている。



問4 出産・子育て支援策の認知度

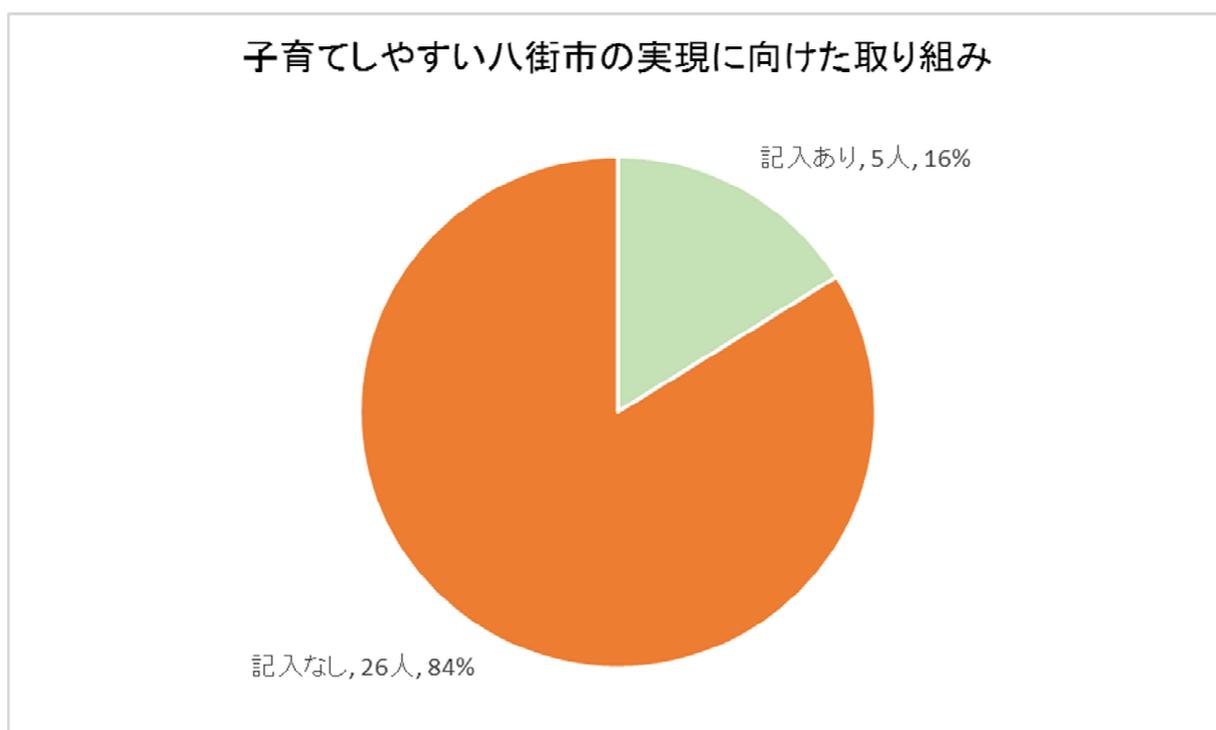
八街市や関係機関が実施している出産・子育て支援策について、知っているものに○をつけてください。(あてはまるものすべて○、N=31)

	回答数	構成比
出産前のお母さんを対象に妊娠・出産・育児に関する講義・実習を行う 【ママになろう！ハッピールーム(母親学級)】	18	58%
子どもが生まれたあと、保健師や助産師などによる 【新生児訪問、こんにちは赤ちゃん訪問、4カ月・10カ月乳児相談、すくすく相談、親子相談、1歳6カ月・2歳児歯科・3歳児健康診査、子どもの「食」教室、ピカピカ教室、あそびの教室】	23	74%
子どもをウイルスや細菌による病気から守る 【予防接種の助成】	26	84%
安心して子育てができるように、様々な経済的支援を目的とする 【出産育児一時金、子ども医療費助成制度、未熟児養育医療費助成制度、児童手当、就学援助制度、ひとり親家庭等への各種助成事業】	27	87%
就労や病気などの保護者にかわって子どもを保育する 【一時預かり、休日保育、病後児保育事業、子育て短期支援事業(ショートステイ事業)などの保育サービス】	12	39%
就労している保護者にかわって放課後や夏休みに児童(小学生)を預かる 【放課後児童クラブ】	26	84%
保護者と子どもが一緒に遊ぶ、楽しむ 【おやこサロン「ひまわり」、子育てサロン、保育園・幼稚園開放】	26	84%
地域で助け合いによる子育てを目的とする 【ファミリー・サポート・センター】	9	29%
子育てに悩んだときの 【家庭児童相談室、育児相談、教育相談ダイヤル、家庭教育相談】	17	55%

問5 子育てしやすい八街市の実現に向けた取り組み

貴協議会や地域の団体が、子育てしやすい八街市の実現に向けて、実際に取り組んでいる活動や取り組みがあれば記入してください。(1つに○、N=31)

「実際に取り組んでいる活動を記入した人」が5人、構成比16%にとどまる。子育てしやすい八街市の実現に向けた地域活動は活発とはいえない状況にある。



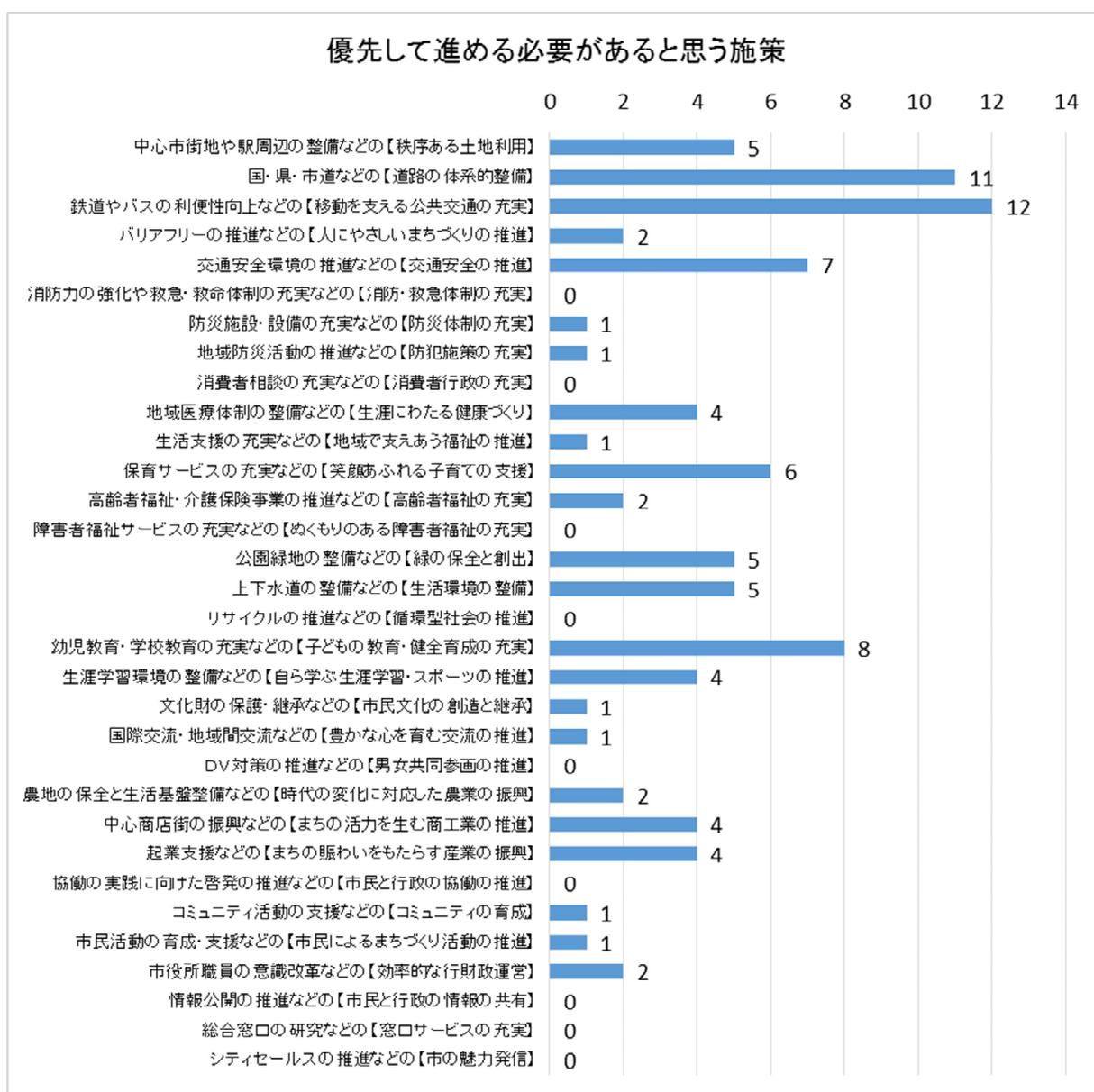
取り組み事例
登校指導
登校時の見守り隊
地区への学校広報紙配布
八街教育の日イベント
PTA活動を中心としたバザー
なぞときアドベンチャー(実住学区)
家庭教育学級
子育てに関する情報交換や保護者が楽しめる講習

問6 優先して進める必要があると思う施策

子どもたちに将来にわたって、安心して八街市に暮らしていただくために、八街市は今後どの分野に特に力を入れてまちづくりを進めるべきだと考えますか。

(3つまで○、N=31)

上位第3位まで見ると、第1位「鉄道やバスの利便性向上などの【移動を支える公共交通の充実】」12人、第2位「国・県・市道などの【道路の体系的整備】」11人、第3位「幼児教育・学校教育の充実などの【子どもの教育・健全育成の充実】」8人となっている。



第6章 新成人と市長との 懇談会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

八街市総合計画2015後期基本計画の策定に当たり、市長との対話を通して新成人となる若者に市政に関心を持ってもらうとともに、若者の視点からまちづくりに対する意見を聴取することを目的に開催する。

(2) 調査の実施概要

①議題

- ・人口減少問題の対策について
- ・公共交通機関の充実について

②参加者

市民参加者：平成31年成人式実行委員 16人

市側参加者：市長、社会教育課長、企画政策課長、その他関係職員

③開催時期

平成30年9月30日（日）14時30分～15時30分

④開催場所

八街市中央公民館

⑤会議形式

市長と参加者による懇談会

2 会議の内容

(1) 人口減少問題の対策について

会議での意見
<p>(親との近居・同居による転出抑制)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 近居できる環境づくりが重要と考える。駅やバス停に近い近居専用団地の開設・ 佐倉市のような同居・近居住み替え支援制度の創設・ 三世帯同居への経済的援助制度の創設
<p>(住環境の改善について)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 人口減少対策と公共交通対策は密接な関係がある。職場や学校までのアクセスが改善されれば転出者は減る。通勤、通学者の利便性向上の観点から、バスや鉄道の増便が有効と考える。特に鉄道は佐倉駅までは充実しているので、佐倉～成東間の増便が必要・ 働ける場所、遊べる場所の充実が必要・ 人口を増やすだけでは様々な問題が生じると考える。アパートやマンションが増えれば、八街市の魅力である落花生畑がなくなったりしないか。人口減少対策と自然保護の両立が必要・ 大型ショッピングモールの誘致
<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 八街市の長所を伸ばすような施策の展開。また、市財政は厳しいと思うが、ある程度コストをかけることも必要・ 老後が楽しく暮らせるようなまちづくり。例えば、歩道整備がされていて散歩しやすいまちなど・ 小中学生への放課後を利用した学習支援

(2) 公共交通機関の充実について

会議での意見
<p>(道路整備について)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 夜間の道が暗くて危険。国道以外の生活道の外灯整備が必要・ 歩道整備、ガードレールの設置
<p>(ふれあいバスについて)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 便数が少なく不便。特に朝夕の通勤・通学時間帯の増便が必要・ 朝夕の時間帯は快速便を設定・ 酒々井アウトレットモールまでの延伸

- ・ 利用者数の少ない不用品な場所は削減するなどルートの改正
- ・ 榎戸駅開設に併せ、ルートを再編してはいかがか。
- ・ 日常的な利用者(通勤・通学者)向けに定期券の発行
- ・ 鉄道ダイヤに合わせた運行

(その他)

- ・ 市外まで移動できるバスの新設
- ・ 予約制の送迎バスの導入

(3) その他

会議での意見

- ・ 本日の懇談会のなかで、八街市が様々な施策を展開していることがわかったが、一方で自分たちの知らない情報も多くあった。市民の方に広くこういった施策を知ってもらうことが重要であり、市は周知方法を改善することが必要ではないか。例えば、ツイッターなどのSNSを活用しては如何か。若者はこういったSNSを利用して情報を得ているし、また、SNSの情報の拡散能力は大きい。
- ・ 中心市街地の活性化以外に南部方面に新たな施設を作る予定はないのか。
- ・ 文化ホールを作る予定はないのか。
- ・ 新たに開設する児童館を活用して、学生と子どもたちの交流(寺子屋事業など)を展開できないか。
- ・ 榎戸駅にコンビニなどの店舗を設置できないか。
- ・ 歩道整備は大変だと思うので、少しでも広がるよう歩道に出ている草や隣接地から出ている枝木の伐採はできないか。
- ・ 八街市のイベントは若者向けではないので、そういったイベントを開催する予定はないのか。



第7章 八街っ子夢議会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

児童生徒が模擬議会を通して地域や将来について考え、議会についての認識を深めるとともに市政への理解と関心を高める。また、児童生徒に総合計画におけるやちまた『八つの街づくり宣言』に沿って一般質問をしてもらうことにより、各分野におけるまちづくりへの意向を把握することを目的とする。

(2) 調査の実施概要

①議題

市政各分野への疑問や要望

②参加者

市民参加者：市内小中学校、千葉黎明高等学校、八街高等学校の代表者 30人

市側参加者：市長、副市長、教育長、総務部長、市民部長、経済環境部長、建設部長、教育次長、会計管理者、財政課長、国保年金課長、高齢者福祉課長、下水道課長、水道課長、秘書広報課長、総務課長、社会福祉課長、農政課長、道路河川課長、教育総務課長、学校教育課長、農業委員会事務局長、監査委員事務局長

③開催時期

平成31年1月22日（火）13時30分～15時50分

④場所

八街市議会 本会議場

④会議形式

児童生徒が議員となり、市執行部に対し一般質問形式によって市政を問う。

2. 会議の内容

『八つの街づくり』 宣言	施策の大綱	質問の要旨
一の街	道路の体系的整備	見通しの悪い道路にカーブミラーの設置 八街十字路の道路整備及びガードレールの設置
	移動を支える公共交通の充実	スポーツプラザまでの直通バスの運行 車いすの利用可能なバス停と駅ホームの整備
二の街	防犯対策の充実	榎戸駅の駅員の常駐
	交通安全の推進	トリックアートの手法を用いた道路標識の導入 押しボタン式信号の色が変わる時間の十分な確保
三の街	地域で支え合う福祉の推進	学校校舎にスロープの設置
	ぬくもりのある障害者福祉の充実	市の障害者福祉サービス及び今後の計画
四の街	生涯にわたる健康づくり	学校給食における食育の推進 市内病院における夜間診療の実施
	生活環境の整備	空き家対策の実施 通学路などの防犯灯の整備 ポイ捨て禁止看板の設置及び環境美化呼びかけの実施
五の街	市民文化の創造と継承	文化ホールの新設
	子どもの教育・健全育成の充実	スポーツプラザに遊具の整備 学習ボランティアの配置
六の街	まちの活力を生む商工業の推進	八街ブランドの確立及びピーちゃんナツちゃん とタイアップした季節ごとの商品開発 道の駅の建設及び商店街看板の設置
	まちの賑わいをもたらす産業の振興	子ども達を対象とした農業教室や体験授業の実施
七の街	市民によるまちづくり活動の推進	市民主体のゴミ拾い大会の実施 部活動における地域人材の活用
	コミュニティの育成	子育てで困っている保護者のためのコミュニティ推進
八の街	市の魅力発信	市長によるフェイスブックなどのSNSを活用した 情報発信 農業や観光資源を活用した新たな八街市の魅力 発信
	窓口サービスの充実	SNSを活用した外国人への情報発信 窓口のワンストップサービスの導入



第8章 まちづくり活動団体 懇談会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

市内で活躍するまちづくり活動団体と懇談を通し、アンケートや統計資料では把握が難しい活動団体から見える市が抱える課題や問題を深掘りすることにより、それらの課題や問題を解決するためには、どのような事業が必要となるか、また事業の実施に当たっては市民や活動団体と行政がそれぞれの立場からどのように連携し取り組むことができるか、その実現可能性を含めて整理することを目的とする。

(2) 調査の実施概要

①議題

- ・活動内容や活動するうえで困っていること
- ・まちづくり活動団体から見える市の抱える課題や問題

②会議形式

活動分野ごとに4つのグループに分け、グループごとに開催
参加者と職員による対話による懇談会



▲交通・防災・防犯・その他分野



▲福祉・地域コミュニティ分野



▲教育・文化・子育て支援分野



▲産業振興・自然保護分野

(3) 開催概要

分野	交通・防災・防犯・その他分野	福祉・地域コミュニティ分野	教育・文化・子育て支援分野	産業振興・自然保護分野
日時	平成31年1月28日(月) 午前10時開会	平成31年1月29日(火) 午前10時開会	平成31年1月29日(火) 午後2時開会	平成31年1月31日(木) 午前10時開会
場所	第1会議室 (市役所第1庁舎3階)	大会議室 (総合保健福祉センター3階)	大会議室 (総合保健福祉センター3階)	大会議室 (総合保健福祉センター3階)
出席団体	夕日丘・坂江防犯パトロール隊	健康・医療・福祉・千葉	子ども会育成連絡協議会	八街商工会議所
	文蓮区防犯パトロール	五区ボランティア	八街市体育協会	八街商店街連合会
	八街を考える市民の会	秋桜社会福祉会	八街市文化協会	八街市農業研究会
	虹の会	八街市社会福祉協議会	八街市更生保護女性会	生活協同組合コープみらい千葉本部
			千葉県八街日中友好協会	環境ボランティア東京田みずすましの会
				農業協同組合八街地区青年部
関係部課等の長	総務部長	総務部長	総務部長	総務部長
	建設部長	市民部長	市民部長	経済環境部長
			教育次長	
	総務課長	社会福祉課長	教育総務課長	農政課長
	財政課長	障がい福祉課長	学校教育課長	商工観光課長
	防災課課長	高齢者福祉課長	社会教育課長	環境課長
	道路河川課長	健康増進課長	スポーツ振興課長	クリーン推進課長
	都市計画課長	市民協働推進課長	子育て支援課長	
その他関係職員	その他関係職員	その他関係職員	その他関係職員	
事務局	企画政策課			

2 会議の内容

(1) 交通・防災・防犯・その他分野

会議での意見
<p>(活動するうえで困っていること)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 組織立ち上げ時に苦勞したことを覚えている。現在は、保険加入の必要もあるので運営資金の支援をお願いしたい。・ 人員が不足しており、現在の会員も高齢化してきて次の担い手がない。・ 会員の平均年齢が78.6歳と高齢化している。町内会の協力を得ることも難しく、新たに会員を増やすことも難しい。
<p>(市の抱える課題や問題)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 八街市は出生率も低く、人口減少が由々しき問題。大胆な施策を実行して欲しい。・ 榎戸駅周辺の活性化・ コンパクトシティ化の推進と人口減少に関する危機感を市民と共有するための非常事態宣言を出す。・ 市民協働の観点からも市には情報発進力を高めて欲しい。解決が難しい課題に対しても、財政難を理由に否定するのではなく、伝え方や視点を変える工夫を行い、前向きに発信すれば、市民にも伝わりやすいのではないか。例えば、「〇〇までは市が実施するので、市民の皆さんには△△をして欲しい」など。・ 市広報紙は行政と市民のコミュニケーションツール。他市町村を参考に冊子化するなどもっと良くして欲しい。・ 市政について学識経験者に頼るのではなく、市民自らが考えるシステム作り・ 協働のまちづくりが重要。・ 総合計画の策定について、市民にもっと情報共有していかないといけない。・ 昨年、運転免許証を自主返納したが、八街市の交通の不便さ、循環バスの充実の大切さを痛感している。高齢者外出支援タクシー券の配布もありがたいが、自己負担も大きく別の方法の検討もお願いしたい。・ 市営住宅を活用して若い人を呼び込んでどうか。・ 上下水道の普及率、1人あたりの公園面積、春先の砂埃問題など住環境の整備に遅れを感じている。特に公園整備については総合計画に盛り込んで欲しい。・ 総合計画策定に当たっては、シンクタンク設置を検討して欲しい。

(2) 福祉・地域コミュニティ分野

会議での意見

(活動するうえで困っていること)

- ・ 市民の健康増進を図る活動をしているが、市内にスポーツできる場所がない。スポーツプラザの予約が取りづらい。空き家の庭などを使った方法も考えているので、情報提供をお願いしたい。
- ・ 情報提供について協力して欲しい。(活用できる補助金、活動団体の情報など)
- ・ 活動団体の活動報告の場を市ホームページ上に掲載するなど、活動内容の周知について協力して欲しい。
- ・ 会員の高齢化と活動資金の不足が問題。区の助成金で活動しているが不足している。
- ・ 法改正により、介護職の報酬単価が下がるなど減収しており、団体の活動にも影響している。
- ・ 活動場所として空き家の活用を考えているので、市から情報提供をお願いしたい。
- ・ 会員の減少と活動資金となっている募金の減少。

(市の抱える課題や問題)

- ・ 市内に魅力ある公園がないので作って欲しい。
- ・ 人口減少している状況が問題
- ・ 市内にはデイサービス施設が不足している。
- ・ 平均寿命だけでなく、健康寿命を延ばすことが重要だと考える。
- ・ 八街市は外国人人口が増えている。外国人への対応を考える必要がある。
- ・ 以前、町内会長をやっていたが、借家だから区に加入しないという人がいた。区加入のメリットを伝えることが重要ではないか。

(3) 教育・文化・子育て支援分野

会議での意見

(活動するうえで困っていること)

- ・ 組織として参加母体が減少しており、親も指導者も集まりにくい状況となっている。
- ・ 協力できないことを理由に参加しないという方もいる。
- ・ 少子高齢化の問題。人口減少が会員減少に影響している。
- ・ スポーツする人が少なくなった。会員が1,000名の時もあったが、現在は減少傾向

向にある。しかし、あまり困っていることはない

- ・ 設立当時は 30 名いた会員が現在 20 名と減少している。
- ・ 会員の高齢化。加入の声がけしても参加してもらえない。
- ・ 活動資金不足
- ・ 団体を維持していくうえで運営資金は重要。補助金メニューが知りたい。
- ・ 会員が少ないと役員がすぐに回ってくるので加入しないという事例や 1 回加入するとやめられないという問題もある。

(市の抱える課題や問題)

- ・ 高齢化を逆手にとってリタイア組を活用してはどうか。
- ・ 印旛郡のなかでも八街市はテニスコート、多目的広場など体育施設は恵まれている。軽スポーツは盛んだが、用具が整備不足となっている。
- ・ 外国人の子ども達への対応
- ・ 学校教育と社会教育が連携強化し、子どもを育成する「学社融合」の実現
- ・ 子ども会など子どもは入りたいと思っても親が入りたがらないという事例がある。区や町内会も同様の事例がある。

(4) 産業振興・環境保全分野

会議での意見

(活動するうえで困っていること)

- ・ 県下でトップの組織率であるが、会員は減少傾向にある。辞めた会員は「家族に借金を背負わせたくない」などを理由に廃業しているケースが多い。
- ・ 会員の高齢化。後継者もない。
- ・ 大手スーパー、コンビニエンスストア、外食チェーンに対向できない。10 年後には現状維持さえできないだろう。
- ・ LED 化で多少安くなったが、街路灯についても電気代の高騰により会計を圧迫している。
- ・ 現状をどのようにして打開すれば良いかわからない。常駐のアドバイザーの派遣などをお願いしたい。
- ・ 空き店舗が増えている。個々の店の連携が難しく、商店街が衰退していつている。
- ・ 高齢者が取り残されることを考えると、活動内容は福祉まで広げて考えていく必要がある。
- ・ 後継者不足。新規就農者が増えない。
- ・ 高齢化の問題から、作物も手間のかからないものに変ってきている。

- ・ 畜産については、事業拡大していかないと大手企業に対抗できない。また、養鶏組合は解散してしまった。
- ・ 八街市は落花生のイメージが強すぎて、他にも特産物があるのに落花生で霞んでしまう。
- ・ 八街市特有の砂埃問題で近隣住民との軋轢が生じている。
- ・ 増加している遊休農地問題
- ・ 敷地内にゴミが不法投棄されている。
- ・ 花を植える活動(東吉田区川沿いに水仙ロード)をしたいと考えたが地権者の理解を得られずに頓挫した経験がある。
- ・ 環境を良くすれば人は集まってくると考え、花を植える活動を推進したいと考えている。
- ・ 活動資金不足を問題として取り上げている団体がいるが、現況の活動資金に合う分相応な活動から始めれば良いと思う。
- ・ 結婚できない後継者が多い。結婚できても、市内に産婦人科がないなど子育て支援の問題があり、充実を図っていただきたい。

(市の抱える課題や問題)

- ・ 良い環境をつくれれば、人が集まり、お金やモノが動く。難しいことからではなく、簡単なことや身近なことから始めれば良い。
- ・ 市が率先的に活動団体やイベント会場に取材を行い、広報紙に掲載することはできないか。イベント開催においては話題性が重要。市が取材に来るというだけでもイベントの信頼性が上がる。
- ・ 市側も市内イベント情報を知らないことがある。どうすれば情報共有できるかが課題である。
- ・ 「情報を発信する人」と「情報が欲しい人」をマッチングする場が必要だろう。
- ・ SNSを活用してはどうか。
- ・ 現在、商工会議所では八街市の活性化について話し合う会議を設けている。こういった場に市職員も参加していただきたい。
- ・ 合併浄化槽の維持管理について、個人の問題とは理解しているが定期点検の実施について行政から指導できないか。蛍を市内の河川に呼ぶ活動をしたいが排水問題でうまくいかない。
- ・ 市内在住芸術家とコラボしたまちおこしをしてはいかがか。

まちづくり活動団体から寄せられた「八街市のまちづくり」に対するアイデアや意見 一覧

分野	アイデア・意見の内容
交通安全・道路整備	来年度からマラソン大会が行われることになるが、市内の道路は走るには危険な場所がありすぎる。気軽にランニングできる場所を作っていただきたい。
	車で普通に走っていても段差があり、びっくりする道路がある。また、歩道が狭い所もだいたいあり、危険な場所がある。
	酒々井インターと八街のドッキング。国道を外したバイパス構想。
	国道409号の交通混雑解消のためバイパス早期開通。
	一般道路の整備。例えば四木交差点右折ラインの新設。
	学童の安全のために歩道の整備、通学路整備等。
	道路整備と信号、右折ライン、一方通行等の道路行政の見直し。 中央中学校通りの道路がデコボコ、自転車で通ったり、歩いたりしたことがあるが怖くて走ってられない。平らに直してほしい。
防災・防犯対策	広大な市内の有効な土地利用、防災システム、地域コミュニティ＝防災、安全安心な地域、街づくりに直結すると思うのでこの局面をどう歩むのか関係各位と協議したい。
	産業、住環境、防災の見直しと確立。災害が少ないといえど、日本列島は想定外の現象が起こりうる。
	泉台地区の銀杏の高さが住宅3階くらいまであり、防犯灯の明かりが隠れてしまっている。小中高校生なりの防災意識の向上。(みどり台、八街北小地区を参考)
	災害時の福祉避難所の明確化。
	防犯に市からの援助金をお願いする。気候の変化で旗等の壊れが多い。町内会からの助成金だけでは不足している。 八街で育った若者が八街で安心して暮らしていけるような街づくりをお願いする。 青色パトロールカーの採用。
土地利用・まちづくり	公園、文化施設等を充実させ市民生活の豊かさ、住みやすさの向上を図る。
	駅北口開発商業/文化核施設：市民の楽しめる場所や施設がなく、複合施設とし、図書館、カルチャー、文化センター、フードコート等を計画してほしい。
	街の創生：住宅、農業、商工業がバランスして暮らしやすく住んで良かったという街を目指す。市民の移動手段、空き家対策、インフラの効率化を考えて、中心部10km程度をコンパクトシティ化の推進に取り組み、郊外居住者の中心部空き家への住み替え移動の指針をマッチングさせる。行政はプラットホームづくりや政策減税等で後押しする。通勤・通学交通アクセスの利便性向上。特にJR快速電車での千葉駅接続。
	榎戸駅前整備や商業活性化の具体的プラン。新しい榎戸駅を中心としたまちづくりを促進協や街の人たちと一緒に考え、実現していきたい。 空き家を子どもやお年寄りが集まれる場所として活用。
計画・行財政運営	財政問題：企業誘致、産業奨励、雇用増加政策、借金246億円の返済、収納率の向上、滞納金回収、歳入に見合う歳出、財政状況を校了して事業仕分けによる徹底削減。
	行政改革：ICTを活用して事務処理業務の効率化を行い、余剰人員の流動化で新たな市民サービス向上にシフトする必要がある。民間で効率的にサービスできるものは民間活力の積極的活用 組織の統廃合、外部委託。
	市の取り組みは素晴らしいものもあるが、プランづくりが冊子になるとそれで終わっている。具体化への施策に力を入れてほしい。予算がない、お金がないで計画が頓挫している。
	将来的な人口減はわかっているの、その対応を学識経験者を含め、具体的な年次計画をもって実行に移してほしい。
	総合計画の中間期見直しが行われない。タイムラグの違和感を感じる。実施計画は1年毎にPDCA実施。 危機感を共有するため、非常事態宣言して、あらゆる政策を駆使する。
その他	議会改革：議会基本条例の制定、議員定数の削減、議員の質の向上、議会の透明化、議会の通年開催、土日、夜間開催。
	選挙投票率の向上。原因究明と対応策実施。
	上下水道：周辺市町との広域化、PFI外部委託による効率化。
	市広報の活用が難しい。(自分たちの活動を紙面に載せたくても制約がある) 田舎暮らしの不便さを考えると、循環バスをもっと増やしてほしい。バスの運営が成り立たないのであれば、バスに変わる何かを考えてほしい。

分野	アイデア・意見の内容
福祉	社会的弱者の人達の要支援体制の拡充が必要。
	老人介護施設の増築。
	高齢者を孤立させない工夫。気軽に立ち寄れる場所をつくる。
	ワンストップの相談支援体制を拡充してほしい。
	出生率向上。入産院の協力的な誘致活動。
	八街市内で地域の方々が集う場を開催すると「健康」「介護予防」に対する意識が高い。地域の方々が健康、介護予防に関心を持ち、自ら考え、実践できる機会を増やしていければと思う。
	高齢者の住みたい街、CCRC構想の実現。
	高齢者が気軽にふれあえる場所をシニアクラブ以外に各地区に作ってほしい。
	高齢化が進み、介護保険の使用料も増えていく。介護予防運動に楽しめて、適度に汗が流れる、音楽を利用した体操は最近マスコミにも取り上げられ、これからもっと重要な役割を持つと思う。
	高齢者外出支援タクシー利用助成券はありがたいが、それでは間に合わない。
地域 コ ミ ュ ニ テ ィ	市民が参加できる「場」を作ってほしい。
	自治区で困りごと相談窓口の開設。
	孤独死を防ぐための地域コミュニティの活性化。
	地域コミュニティの中で気軽に参加できる機会がほしい。
	市民にとにかく協働が必要であることをわかってもらう。職員も怖れずに訴えてほしい。職員もまだまだ協働についての意識が十分ではない。市民と職員の意識改革が必要。市民に言われたことで「できないこと」はよく説明して「できない」という。どうしたら良いのか代替案をともに考えていく姿勢が必要だと思う。互いに分かり合うため、職員と市民で討論する。
	活動団体を集めた活動の報告会の開催。小グループの意向をくみ、寄り添い育てる。(サポートセンターで)
	区(自治会)への加入の割合が低いので何か対策を共に考えていきたいです。
	地域コミュニティを充実し、市民の参画意識、連帯意識を向上させる。
	八街市は毎年800名近くの人口減少が続いている。まず自助の精神が肝要。市も自立して活動を行っている個人、団体を応援すべきと考える。PDCAですが、まずDO、ACTIONが大事。机上の計算だけでは物事が進んでいかない。
	高齢化に伴い、近所間の扶助が必要であると思われる現在、八街市内の各区(町内会)の運営が一部市民に馴染めない区もあり、市行政のもと町内会の見直しをし、市民全員を町内会に入会したい。(町内会によっては現状の運営の元での入会は納得しない。)
	区(町内会)の必要性。家庭の少数化した現在、近所間の扶助が必要であり、1人ではできないこともお互いに手伝いあうことで近所間の絆もでき、明るい街づくりになる。
	区(町内会)の統一的規約。八街市の各区の基本的な規約を統一する。各区が追記して、特色有る地域性を活かした規約とする。
	区(町内会)各自が納得した運営。一部の役員による慣例的な運営から町内全員に透明な運営の仕方。行政に押しつけにならないような指導のもとで、現在の各町内会の代表者による細部にわたる事項を検討し決める。市からの補助金について市民全体が平等に受けられる運営の仕方に考慮してほしい。
	予算的な問題は協働により解消
	少子化に向けて、市の行政を少しずつ区に置き換える。共助を進める。
	自助、共助、公助を根幹として危機感を持つ姿勢が必要と考え、市政、各区との行政をさらに密にすることが街の将来に繋がるものと思い、市政に関しては「すぐやる課」を熱望する。
	「一輪の花を愛でて、いける健康法」で花のある生活を楽しみ、自助、共助、公助を目指し、自らの心身ともに健康を目指し、まちづくりをしていきたい。
	八街市も年々人口が減っていく日本の平均的な地域社会だが、地域の問題として憂慮している人も多く、小さなボランティア活動から継続性をもった起業活動も見受けられる。これらの地域活動には共通点も多く、それらを繋げたり、携われるようバックアップするサポートセンターや人材育成できる環境を提供してほしい。

分野	アイデア・意見の内容
教育・文化	規範意識をもてるような市民を育てる市政を期待する。
	子どもたちが八街で生き、生活することの喜びを実感する。大人が範を示し、その姿を見せることを実現したい。
	スポーツ人材の育成や環境整備をお願いしたい。
	沖分校を南公民館として活用してほしい。
	子どもたちの体験活動の促進。 小学校の空き教室の利用（子どもたちにやさしい方法）。
子育て支援	子どもたちが安心安全に遊べる場所を増やしてください。
	子育て支援行事のカレンダー作成。
	保育園、児童施設等の充実を図り、若者に魅力的な街づくり（教育レベルの向上）。
	少子化がさらに進行する中で子ども会、地域が担う責任の大きさ、改善を強く思う。
	地域社会と子どもの育成。「学社融合」の実現。 学校や学童保育における障害のある子どもたち、グレーゾーンの子どもの達への合理的配慮。
農業・産業振興	後継者の育成、青年部への援助。
	外国人労働者の積極的な雇用の検討。
	耕作者なしの空き地が増加すると思う。企業による農業経営が盛んになり、組合組織を検討する必要もある。
	市民を弱者を置き去りにしない。市内に営業していた小売店、飲食店がさまざまな理由により閉店している。
	商業施設を充実し、街で買い物、食事の環境をつくり、他地域への流出を防ぐ。
	八街のピーナッツはどこよりも美味しい。世界に輸出できたらいい。畑も企業化していけば若者が残ってくれるのではないか。
	後継者のいない農地の活用。
	法人農家の呼び込み支援。
	県道沿いの農地は倉庫等の有効利用。
	八街ジンジャーエールをもっと進化させることを考える。高知県他のジンジャーエールに見習う。ジンジャーエール製造工場の誘致建設。
	企業誘致セールス部の開設。
	八街は地盤も固く、海拔も高いし、新鮮な野菜が安く手に入って住みやすい街です。足りないのは企業だと思う。税収が上らなければ、行政は何もできない。企業誘致が一番の課題だと思う。空き地は沢山あるし、成田空港も近いし、何か繋げられないだろうか。
昨今、自然災害が多発している。本市はその面で安心安全の地域として自負できる。安心安全と多くの自然環境を有するこの地をアピールする。特に安心安全を一番重要視する企業等を調査し、誘致活動を実施する。	
店舗老朽化、消費税問題。	
市民ニーズの多様化。	
観光・まちおこし	八街の野菜はとてもおいしい。落花生もとてもおいしい。平らな畑の景色が美しい。赤い砂嵐も独特である。もっと八街の良さを全国に宣伝してほしい。八街にもすばらしい芸術家たちがいる。宣伝してほしい。お金がなくてもセンスのある宣伝力で良い方向に向かうと思う。そして自慢できる街で子どもたちを育ててほしい。
	小谷流地区にゴルフ場とペット施設が開発され、昨今のペットブームに乗った商法であるが、利用顧客がほとんど県外の方で八街市の経済に影響を及ぼしていない。こういったお客と市内産業を結びつける方策を考えてはどうか。
	新規イベントづくりは街復興に最高の手段と考える。富里スイカマラソンを参考にする。
	桜の花街道の環境整備。例えば八街市クリーンセンター〜用草間。
	酒々井インター、酒々井アウトレットができて、八街のすぐそばまで人が押し寄せている。この人達をいかに八街へ呼び込むかにかかっている。集客力と魅力ある場所づくりとして道の駅も一つの方法と考える。
	まちおこし、魅力ある街づくり、生活の充実を図るため、大型ショッピングモール誘致、道の駅、自然森林公園等。
	駅南口商店街の繁華街活性化対策に真剣に取り組む必要がある。軽トラ朝市の実現。
	八街観光大使を置いて、積極的なイベント活動。
環境	樹木の枯れ枝の整備、草刈りの支援が必要。
	里山保全事業として、バンガローやツリーハウスの設置。
	砂埃対策。人口減少の一因となっているので徹底的な改善を進めてほしい。
	市町村型合併浄化槽の導入。

第9章 市民懇談会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

総合計画 2015 後期基本計画の策定に当たって、これからの八街市のまちづくりに関する市民の意向を把握し、かつ市民と市執行部職員が懇談を通して相互理解を深め、より効果的な計画とするための基礎調査資料とすることを目的に開催する。

(2) 調査の実施概要

①議題

- ・これからの八街市のまちづくりについて

②参加者

市民参加者：28人

市側参加者：市長、副市長、教育長、総務部長、市民部長、経済環境部長、建設部長、教育次長、秘書広報課長、総務課長、財政課長、企画政策課長、防災課長、納税課長、社会福祉課長、市民協働推進課長、子育て支援課長、健康増進課長、障がい福祉課長、高齢者福祉課長、市民課長、国保年金課長、農政課長、商工観光課長、環境課長、クリーン推進課長、道路河川課長、都市計画課長、都市整備課長、下水道課長、教育総務課長、社会教育課長、スポーツ推進課長、農業委員会事務局長、水道課副主幹

③開催時期

平成31年3月17日（日）10時～正午

④場所

総合保健福祉センター 大会議室

⑤会議形式

参加者と職員による対話による懇談会

やちまた「八つの街づくり宣言」に沿って分野ごとの意見聴取

2 会議の内容

(1) 「一の街 めざします！便利で快適な街」について【都市基盤整備分野】

会議での意見

(土地利用について)

- ・ 八街市は、上下水道などのライフラインの整備が遅れている。空き家の問題もある。郊外に住んでいる人達を市内中心に集めるコンパクトシティ化について検討する必要があり、市はそのプラットフォーム作りを進めるべきだと考える。

(公共交通について)

- ・ ふれあいバスは現在、八街大祭や八街市産業まつりの開催される日曜日以外は運行していないが市イベント時などには臨時運行していただきたい。

(移動支援について)

- ・ 高齢者外出支援タクシー制度の利用者制限や利用回数制限をなくし、もっと利用しやすい制度にして欲しい。また、迎車料金が高く、川上地区などの南部地域では利用が難しいと聞いている。みんなが住みやすいまちづくりをお願いしたい。

(2) 「二の街めざします！安全で安心な街」について【防災・消防・安全分野】

会議での意見

(通学路の交通安全について)

- ・ 道路行政担当に普段から要望はしているが、グリーンベルトは時間の経過とともに消えていってしまう。また、踏切際や深い側溝など子ども達にとって危険な箇所がある。子ども達の安全のためにサポートしてくれている方々もいるが、市にも道路の安全確認やグリーンベルトのチェックをお願いしたい。また、道路の拡幅もお願いしたい。

(防災について)

- ・ 茨城県の東海第2原子力発電所の稼働をあと20年延長させるという報道を聞いた。福島原発事故のことを考えると、万が一事故が起きた場合、千葉県への影響は甚大。対応方法について考えていただきたい。
- ・ 八街市は、災害に強い街というイメージがあるが、高齢社会となり、災害弱者対策を後期基本計画のなかでも盛り込んでいただきたい。また、防災備蓄、市民啓発、広報宣伝にも取り組んでいただきたい。

(3) 「三の街めざします！健康と思いやりにあふれる街」について

【保健・医療・福祉分野】

会議での意見

（障害者との関わりについて）

- ・ 人生の途中で失聴となった場合や高齢が原因で難聴となる場合、手話が分かる人は少ない。聴覚障害が原因で地域の行事活動にも参加できなくなり、自分の存在について悩んでしまうケースもある。障害を持っている方に対しては当事者視点が重要であり、市職員と障害者が接点を持つ機会を設けてもらいたい。実際、佐倉市では実施されている。

（児童館の整備について）

- ・ 働く親も増えてきたことに伴い、子ども達の遊び場の確保などの問題も起きている。自分もこれからできることを考えていくが、児童館を整備する際には調理実習なども行いたいので、調理室を整備していただきたい。

（保健・医療について）

- ・ 市内には人間ドックを受診できる医療機関もあるが、佐倉市などの市外医療機関にかかっている方が多いと聞く。周知方法が足りないのではないか。積極的にPRして行ってもらいたい。
- ・ 八街は健康に関する指標が県下でも低い状況にある。調理教室など地域に出向いて実施して、少しでも健康に関する指標の向上に努めていただきたい。

（４）「四の街めざします！豊かな自然と共生する街」について【環境保全分野】

会議での意見

（循環型社会について）

- ・ 八街市では、プラスチック回収もしてもらい助かっている。ペットボトルの分別袋が一杯になることは少なく、袋の大きさについて検討してもらいたい。また、衣類や食用油の再利用について検討してもらいたい。

（排水の問題について）

- ・ 浸透枳の使用している人がいるが、場合によっては自然環境を汚している場合がある。合併浄化槽についても、管理は個人に任されており、排水の垂れ流しとなっているケースもある。八街市の豊かな自然環境は環境資源であり、市民への意識付けも含め、排水問題については考えていただきたい。

(5) 「五の街めざします！心の豊かさを感じる街」について【文化・教育・学習分野】

会議での意見

(不登校問題について)

- ・ 国の方針も変更され、不登校は問題行動ではないという考え方になったと伺っている。不登校は自分を守る最後の手段であり、学校に行かない子ども達を問題視するのではなく、学校の対応方法について考えることが重要だと思う。昨年、市長が「みんなちがって、みんないい」という発言をされていたが、自分も嬉しかった。学校に行かない子ども達も共に暮らしやすい学校づくりをお願いしたい。インクルーシブ教育の観点からも総合計画のなかの不登校児を減らすという表記や目標は削除していただきたい。

(文化ホールの建設について)

- ・ 八街市では、文化ホール建設のための寄付金を募っているという話を聞いたが、寄付をする方法がわからないので教えていただきたい。文化継承は重要と考えている。ぜひ文化ホールを建設していただきたい。

(スポーツ振興について)

- ・ 他市を見習い、体育協会をスポーツ協会に見直ししていただきたい。スポーツ振興が子育て支援に繋がる。私は普段、北部グラウンドで活動しているが、雨水が貯まりやすく、整備用具についても要望したが実現には至らなかった。その他にもスポーツ指導の講師の不足や学区単位でのスポーツ大会の開催などスポーツ振興で地域を盛り上げていただきたい。

(6) 「六の街めざします！活気に満ちあふれる街」について【産業・経済分野】

会議での意見

(農業振興について)

- ・ 八街市の将来都市像「ひと・まち・みどりが輝くヒューマンフィールドやちまた」の「みどり」とは農業を守ることだと思う。八街の「みどり」である農業に惹かれて移住してきた方もいる。
- ・ 農業は高齢化や販売価格など問題も多いことは承知しているが、農業振興を明確に位置づけていただきたい。八街市のショウガを使ったジンジャーエールも特産品となった。農業振興に遊休農地や高齢者を活用してはどうか。他国ではクラインガルテン(＝貸農園)という農業振興だけでなく、農業を楽しんでもらうといった方法も盛んである。特産品のブランド化も含め、八街市全体の発展に取り組んでいただきたい。

(7)「七の街めざします！市民とともにつくる街」について【協働・自治分野】

会議での意見

(市民協働について)

- ・ 八街市に「市民協働推進課」が新たに設置され喜ばしいことと考えている。近所に認知症の方が増えてきて、地域包括支援センターで初期の相談は受けていただいているが、行政においてもこういった問題に横断的に関わっていただきたい。例えば、地域のコンビニエンスストアと協力して「相談窓口」ステッカーを貼って対応していただくと、防災・防犯にも役立つと思う。
- ・ 今日の懇談会について、自分が友人を誘ってくれば良かったと反省している。自分がこういった懇談会があると発信すれば良かった。自助、共助という言葉があるが、自分は何ができるか市の皆さんと共に考えていきたい。市が実施するこういった機会を大切にしていきたいので、これからもっと増やしていただきたい。今日の懇談会に参加できて良かった。

(8)「八の街めざします！市民サービスの充実した街」について【行財政分野】

会議での意見

(市民と行政の情報共有について)

- ・ 八街市民は約7万人いるのに、本日の懇談会の参加者の意見だけでこれから5年間の施策を決定して欲しくない。こういった場に多くの方に参加してもらうためにも、市広報紙や区回覧だけに頼らない市民の方への呼びかけが必要ではないか。また、地域ごとに懇談会を開催し、直接市民の声を聞いていただきたい。以前、台風で家のガラスが割れたとき、防災課の職員が来て修理してくれたことがあった。市役所は市民のためがあると宣伝するためにも、市民と直接対話する場は必要ではないか。

(人口減少問題について)

- ・ 八街市では、人口減少が大きな問題となっている。5年間で約3,600人の減少となっている。出生率も低い状況にある。隣の富里市では人口が増えているらしいが、八街市も魅力あるまちづくりについて検討していく必要があるだろう。「憩いの広場」、「大型ショッピングモール」の開設や雇用増加も大切。真剣にまちづくりについて検討していただき、あらゆる施策を講じていただきたい。



第 10 章 社会指標の比較

1 調査の概要

(1) 調査の目的

総務省の示す類似団体（Ⅱ-1：人口5万人以上10万人未満、産業構造Ⅱ次・Ⅲ次95%未満かつⅢ次55%以上の団体）や近隣周辺市と比較し、本市がどのような水準にあるのかを各種統計データ（社会指標）から明らかにすることを目的とする。

(2) 比較対象自治体

- ・ 東金市
- ・ 袖ヶ浦市
- ・ 富里市
- ・ 大網白里市

※選定事由

東京から40 kmから60 km圏内にある
総務省の示す県内類似団体、又は
近隣周辺市から選定。

（八街市：東京から50 km圏内）



(3) 比較対象指標

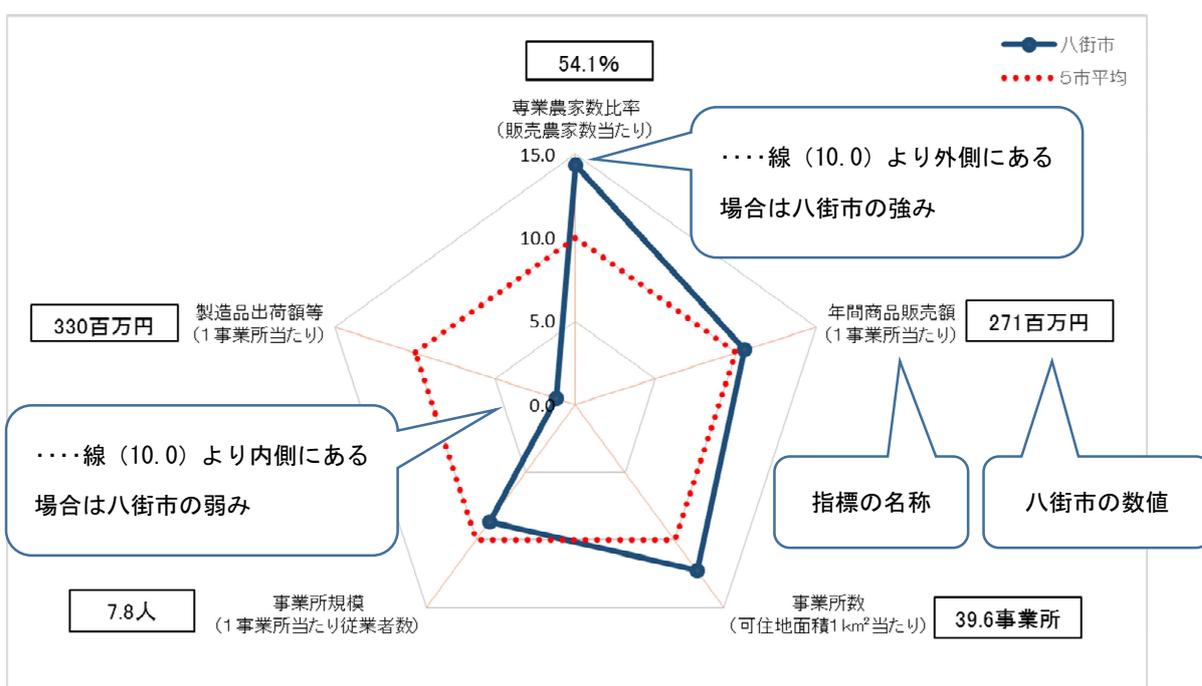
次の11分野の63指標を比較した。なお、各指標の数値については、千葉県統計協会の発行する「指標で知る千葉県2018—千葉県統計指標—」や千葉県統計年鑑等を主に参考に行っているため、各担当部署で把握している数値と異なる場合があり、また、指標の性質から数値の大小や調査年によって単純に善し悪しが判断できない場合がある。

- (1) 人口
- (2) 都市形成
- (3) 経済基盤
- (4) 行政基盤
- (5) 教育・文化
- (6) 労働
- (7) 交流
- (8) 居住・環境
- (9) 社会保障
- (10) 健康医療
- (11) 安全

(4) グラフ（レーダーチャート）の見方

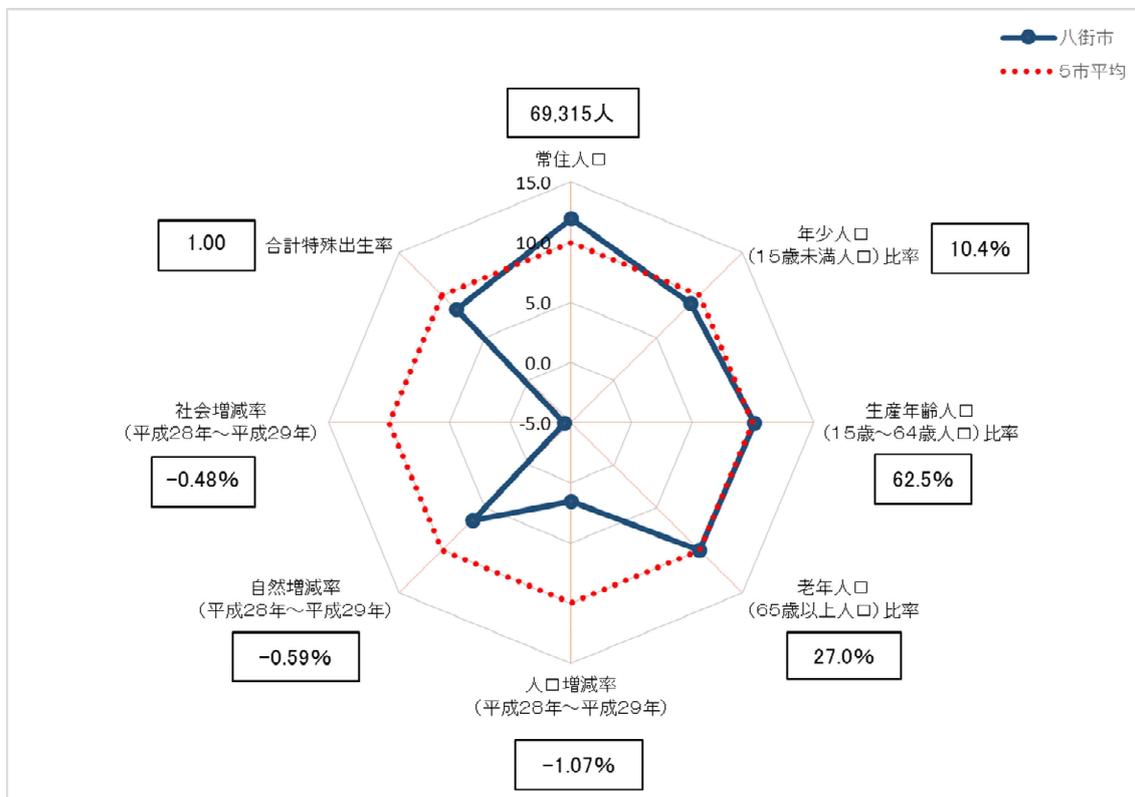
5市の平均値を基準として \cdots 線 \cdots で表示している。指標が八街市の特徴（「強み」と「弱み」）をわかりやすくするため、5市の平均値（ \cdots 線 \cdots ）を10.0としている。10.0より、外側にある項目は八街市の良さや強みを示し、内側にある項目は弱さを示している。

※比率や数値が低い・小さいほうが望ましいと思われる項目については、低い・小さいほうが点数が高くなるように設定している。



2 調査の結果

(1) 人口



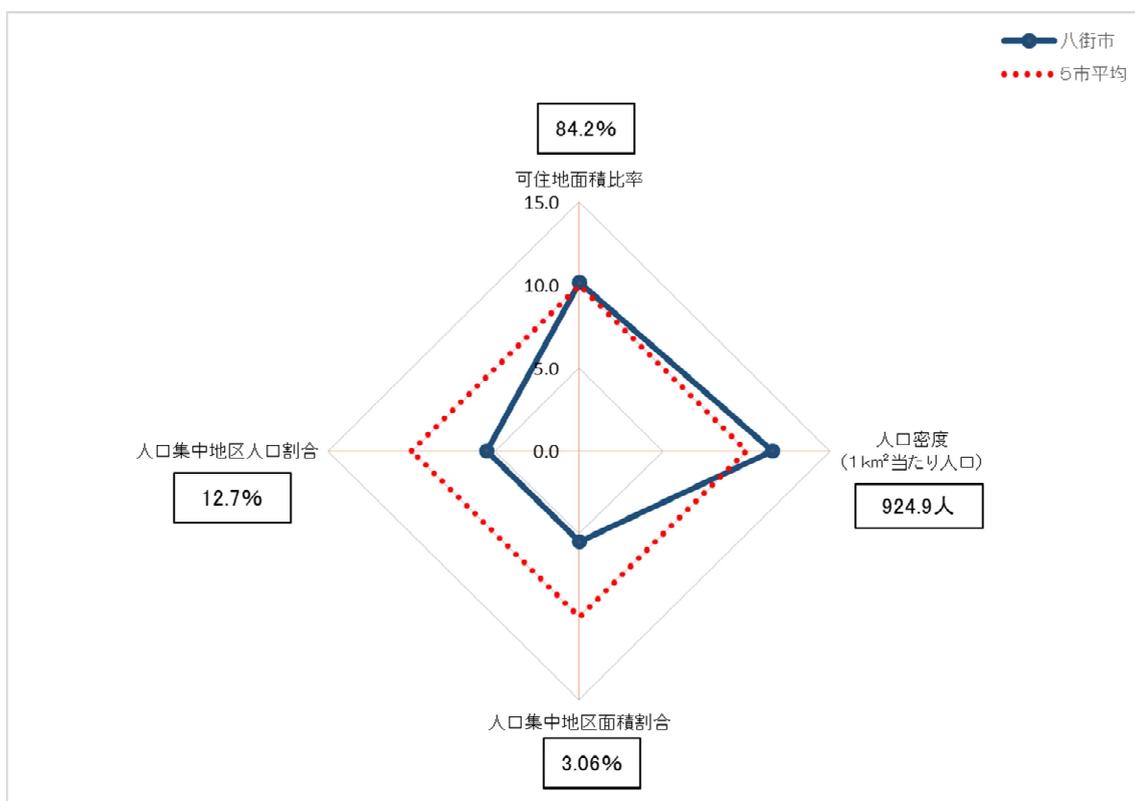
- ・【常住人口】平成29年10月1日時点
本市は、5市の中では最も人口が多く、5市平均値を11,377人上回る。
- ・【年少人口（15歳未満人口）比率】平成29年4月1日時点
本市は、5市平均値を約1%下回る。
- ・【生産年齢人口（15歳～64歳人口）比率】平成29年4月1日時点
本市は、5市平均値を約1%上回る。
- ・【老年人口（65歳以上人口）比率】平成29年4月1日時点
本市は、5市の中では平均的な比率となっている。
- ・【人口増減率（平成28年と平成29年を比較）】平成29年10月1日時点
自然増減率、社会増減率を合算した人口増減を示す指標。
本市は、5市の中でも最も低い数値となっている。（参考：5市平均値-0.17%）

- ・【自然増減率（平成 28 年と平成 29 年を比較）】平成 29 年 10 月 1 日時点
出生、死亡による人口増減を示す指標。
本市は、5 市の中では最も低い数値となっており、死亡者数が出生者数を上回る。

- ・【社会増減率（平成 28 年と平成 29 年を比較）】平成 29 年 10 月 1 日時点
転入、転出による人口増減を示す指標。
本市は、5 市の中で唯一マイナス値となっており、転出者数が転入者数を上回る。（参考：5 市平均値+0.21%）

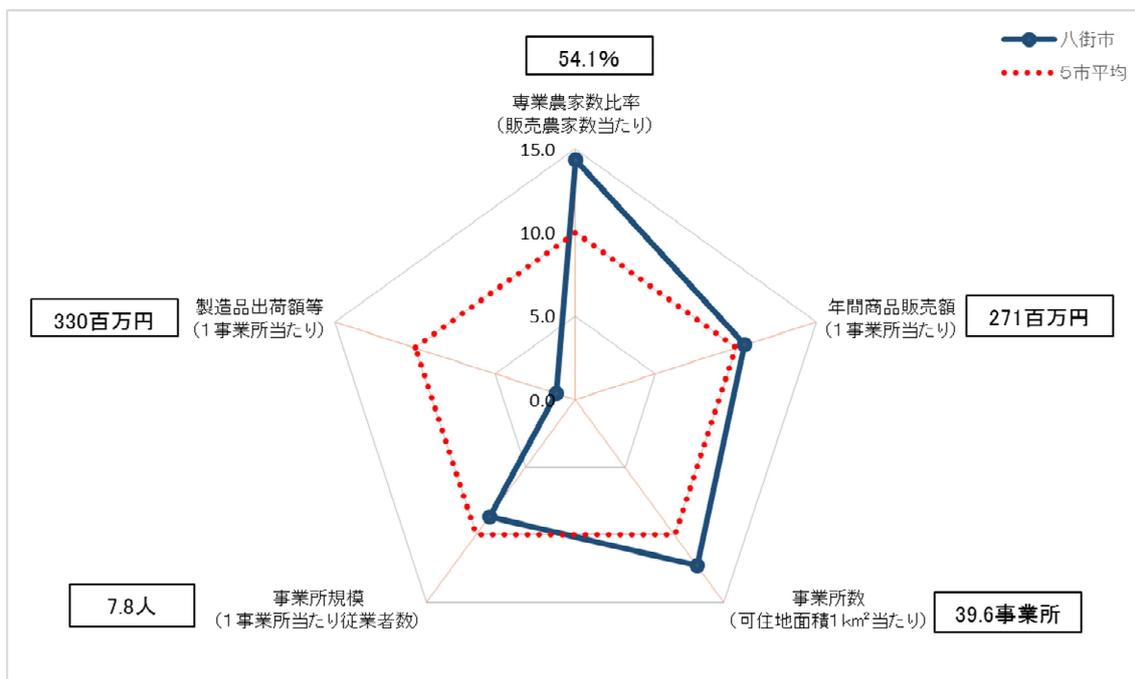
- ・【合計特殊出生率】平成 28 年時点
その年次の 15 歳から 49 歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
本市は、5 市の中では最も低い数値となっている。（参考：5 市平均値 1.20）

(2) 都市形成



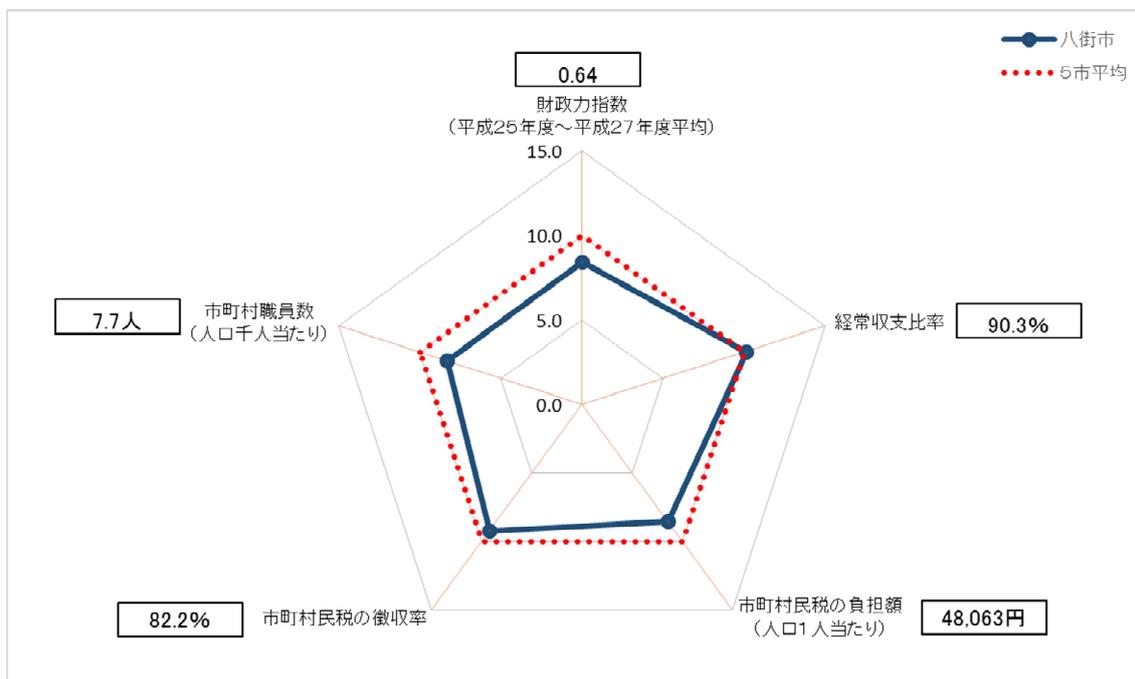
- ・【可住地面積比率】平成29年10月1日時点
本市は、5市の中では平均的な数値であり、多くの市域面積で暮らすことが可能となっている。
- ・【人口密度（1km²あたり人口）】平成29年10月1日時点
本市は、5市平均値より高い数値となっている。
- ・【人口集中地区面積割合】
人口集中地区とは、日本の国勢調査で設定されている集計単位の一つであり、市区町村の区域のうちで人口密度の特に高い地域を表す。本市の人口集中地区面積割合は、5市平均値より低い数値となっている。
- ・【人口集中地区人口割合】
本市の人口集中地区人口割合は、5市平均値より低い状況にある。5市の中では人口密度が高いにも係わらず、人口集中地区面積、人口割合ともに5市平均値より低いことから、人口が市全域に分散しているといえる。

(3) 経済基盤



- ・【専業農家数比率（販売農家数当たり）】平成27年2月1日時点
本市は、5市の中では最も高く、県内でも2位となっている。
- ・【年間商品販売額（1事業者当たり）】平成28年7月1日時点
本市は、5市平均値より高い数値となっている。
- ・【事業所数（可住地面積1km²当たり）】平成26年7月1日時点
本市は、5市平均値より高い数値となっている。
- ・【事業所規模（1事業所当たり従業者数）】平成26年7月1日時点
本市は、5市平均値より低い数値となっている。事業所数は多い一方、事業所規模は小さい状況となっている。
- ・【製造品出荷額等（1事業所当たり）】平成28年6月1日時点
本市は、5市平均値を大きく下回る数値となっている。
(参考：5市平均値 2,701 百万円)

(4) 行政基盤



・【**財政力指数**】平成25年度～平成27年度平均

財政の豊かさを表す指数。自治体運営に必要な経費に対して、自前の収入(税金など)がどれくらいあるかを示す数値。1に近いほど財政に余裕があるとされる。本市は、5市平均値より低い数値となっている。

・【**経常収支比率**】平成27年度時点

地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標。経常収支比率が低いほど、財政の弾力性が高く、逆に高いほど財政が硬直化していることを示す。この比率が100になると完全に財政が硬直化していることを示し、100を超えると、恒常的に必要な経費が収入でまかなえていない状態になっていることを示す。本市は、5市の中では平均的な数値となっている。

・【**市町村住民税の負担額(人口1人当たり)**】平成27年度時点

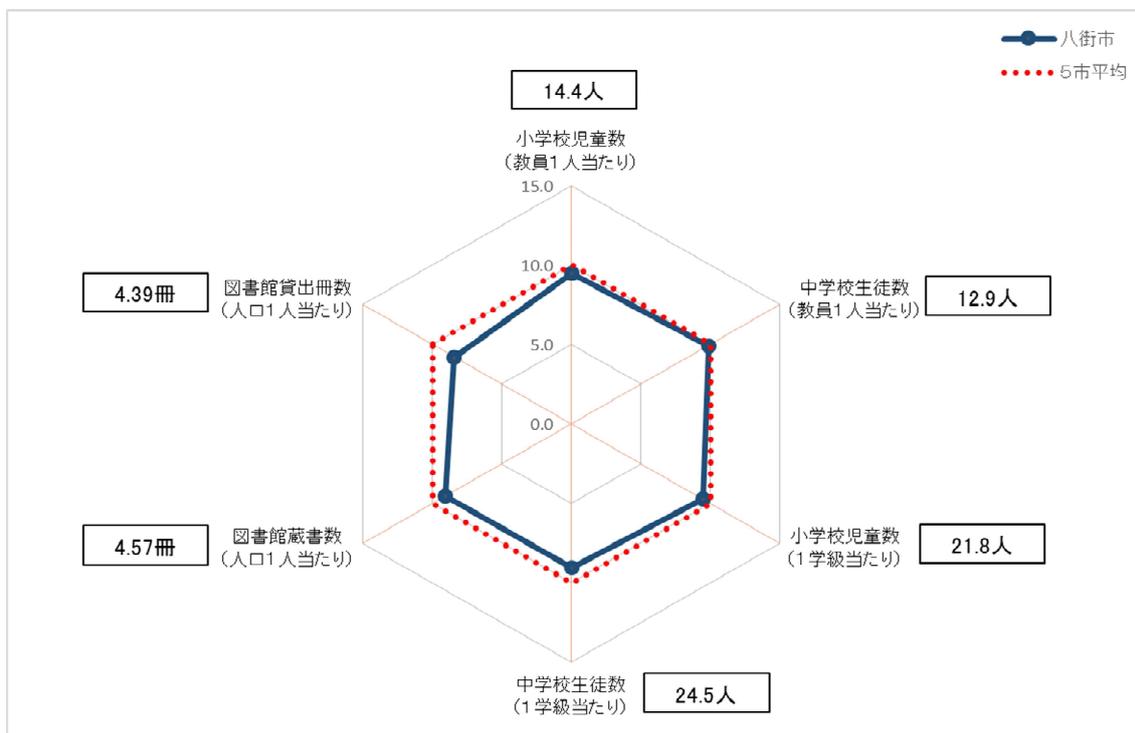
本市は、5市平均値より低い数値となっている。

・【**市町村住民税の徴収率**】平成28年度時点

本市は、5市平均値より約6%下回っている。市町村住民税の負担額、徴収率が低いことは市の健全な財政運営にとって大きな問題といえる。

- ・【市町村職員数（人口千人当たり）】平成29年4月1日時点
本市は、5市平均値より低い数値となっている。

(5) 教育・文化

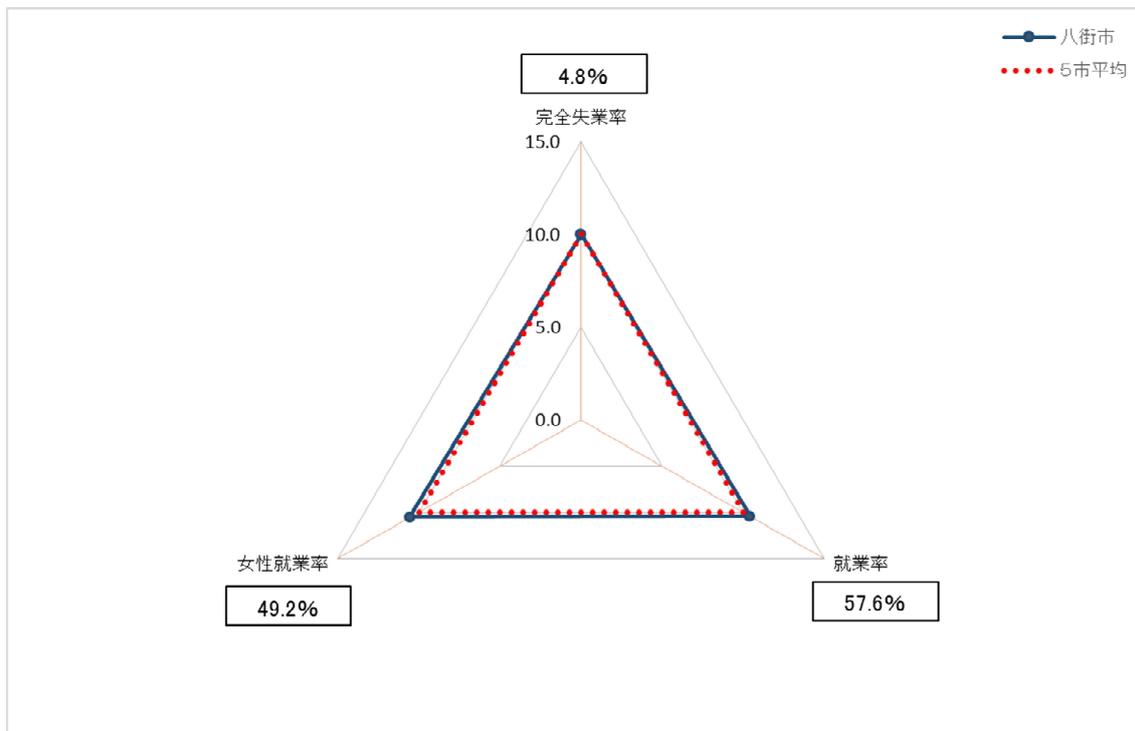


- ・【小学校児童数 (教員1人当たり)】平成29年5月1日時点
 - ・【中学校児童数 (教員1人当たり)】平成29年5月1日時点
 - ・【小学校児童数 (1学級当たり)】平成29年5月1日時点
 - ・【中学校児童数 (1学級当たり)】平成29年5月1日時点
- 本市は、5市の中では平均的な数値となっている。

- ・【図書館蔵書数 (人口1人当たり)】
- ・【図書館貸出冊数 (人口1人当たり)】

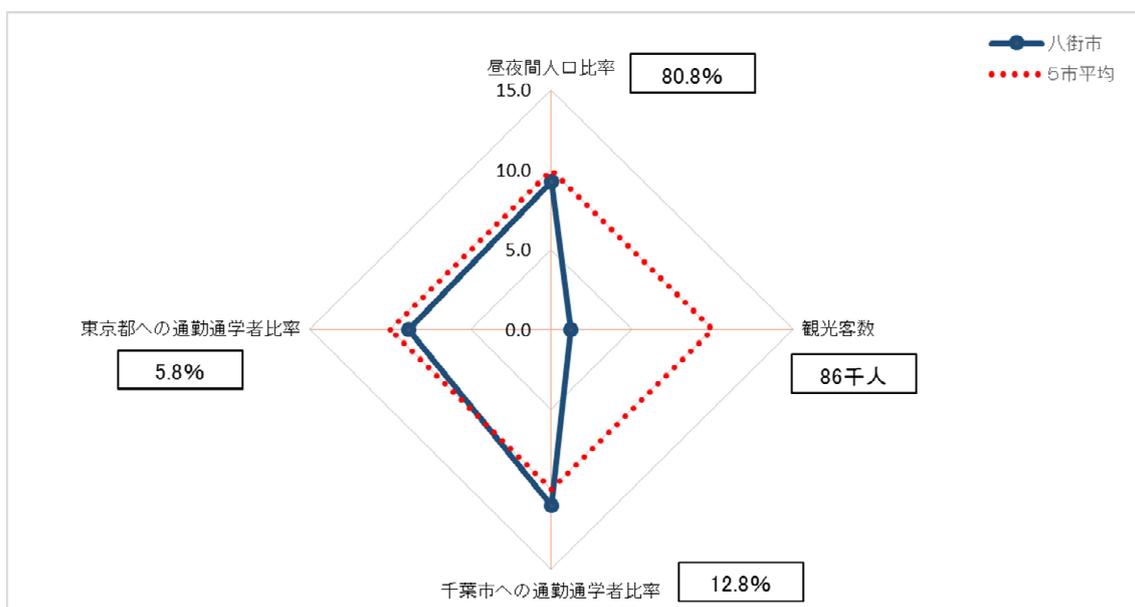
本市は、図書館書数は平均的だが、貸出冊数は5市平均値より低い状況となっている。

(6) 労働



- ・【完全失業率】平成27年10月1日時点
労働力人口（15歳以上の働く意欲のある人）のうち、完全失業者（職がなく、求職活動をしている人）が占める割合で、雇用情勢を示す重要指標のひとつ。
本市は、5市の中では平均的な数値となっている。
- ・【就業率】平成27年10月1日時点
- ・【女性就業率】平成27年10月1日時点
本市は、5市平均値を上回っている。

(7) 交流



・【昼間人口比率】平成 27 年時点

昼間と夜間の人口の差を示したもので、100%以上なら、多くの人が昼間に市内に集まり、100%以下なら昼間は市外へ通勤通学していることを表す指標。

本市は、5市平均値より低く、昼間は人口流出超過状態にあり、本市のベッドタウンとしての特徴を示しているといえる。

・【観光客数】平成 28 年度時点

本市は、5市の中でも最も低い状況であり、その差も大きく開いているが、市内観光施設の開業等の影響により近年では増加傾向にある。

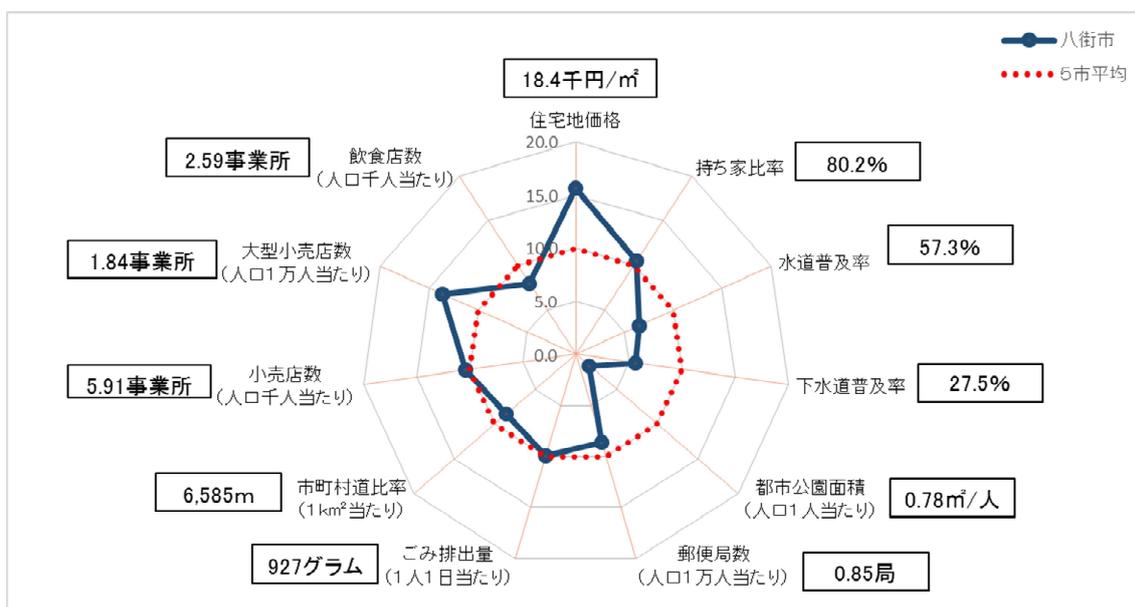
・【千葉県への通勤通学比率】平成 27 年 10 月 1 日時点

本市は、5市平均値をやや上回っており、多くの人が千葉市に通勤通学している状況となっている。

・【東京都への通勤通学比率】平成 27 年 10 月 1 日時点

本市は、5市の中では平均的な数値であり、本市が東京都までの通勤通学圏内に位置していることがわかる。

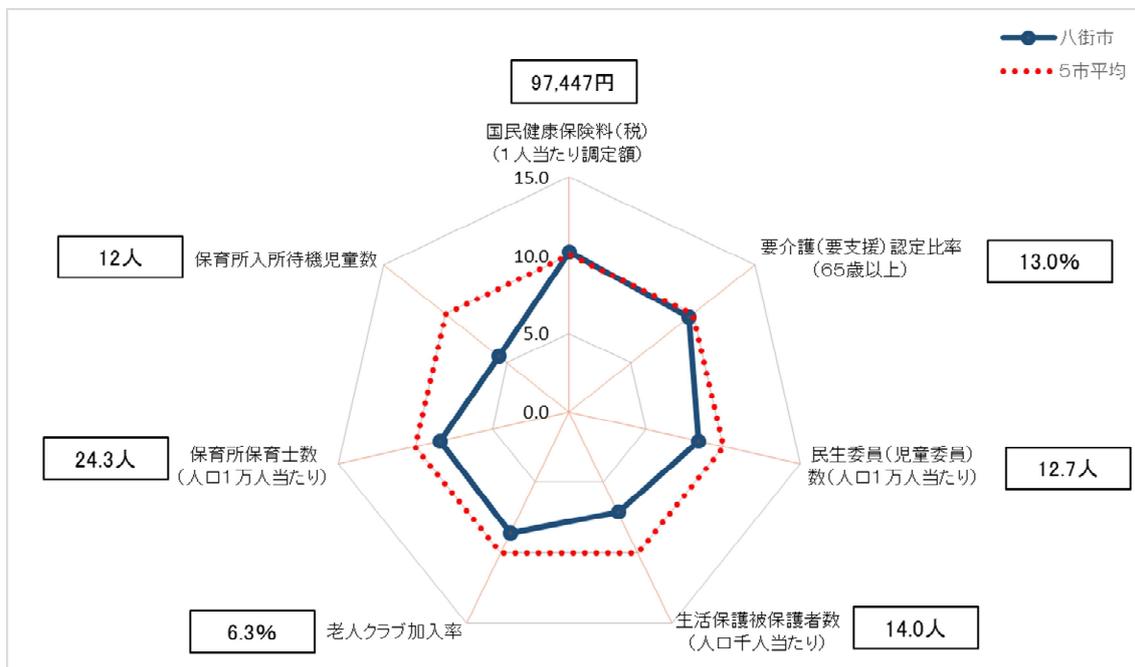
(8) 居住・環境



- ・【住宅地価格】平成 29 年 7 月 1 日時点
- ・【持ち家比率】平成 27 年 10 月 1 日時点
本市は、5 市の中でも最も住宅地価格が低く、持ち家比率は高い状況になっている。
- ・【水道普及率】平成 29 年 3 月 31 日時点
- ・【下水道普及率】平成 29 年 3 月 31 日時点
- ・【都市公園面積（人口 1 人当たり）】平成 29 年 3 月 31 日時点
本市は、5 市の中では最も低い状況であり、その差も大きく開いている。
- ・【郵便局数】平成 28 年度時点
本市は、5 市平均値より低い数値となっている。
- ・【ごみ排出量（1 人 1 日当たり）】平成 27 年度時点
本市は、5 市の中で平均的な数値となっている。
- ・【市町村道比率（1 km²当たり）】平成 25 年 4 月 1 日時点
本市は、5 市平均値より低い数値となっている。
- ・【小売店数（人口千人当たり）】平成 26 年 7 月 1 日時点
- ・【大型店数（人口 1 万人当たり）】平成 26 年 7 月 1 日時点
- ・【飲食店数（人口千人当たり）】平成 26 年 7 月 1 日時点

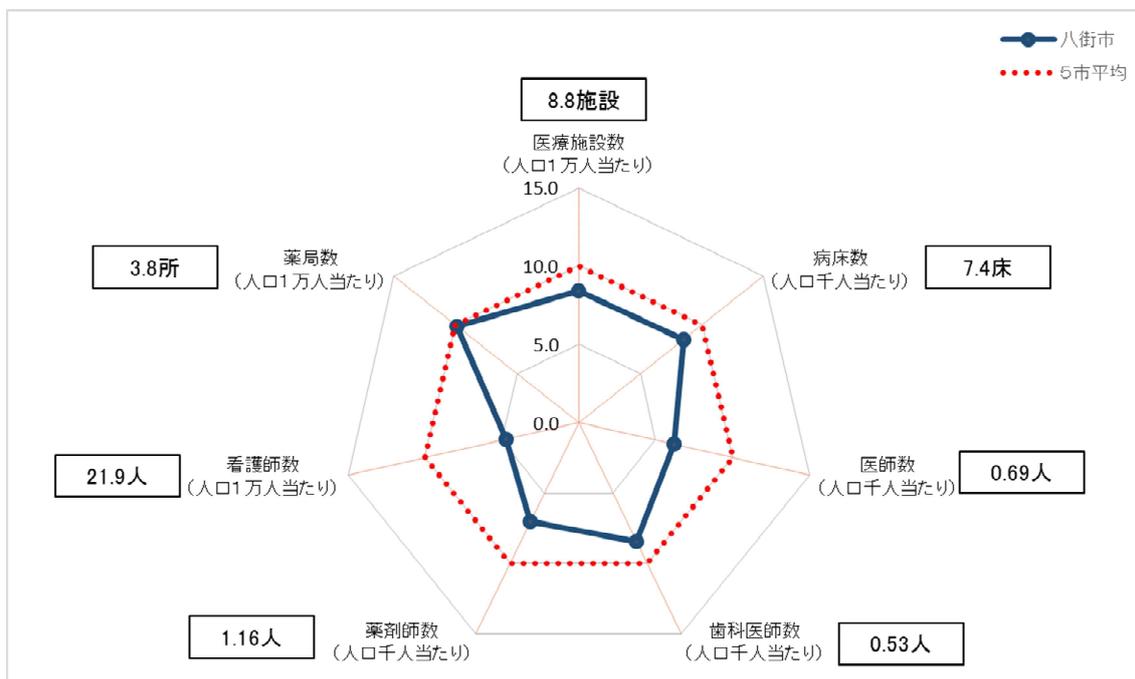
本市は、小売店数、大型店数については5市平均値より高い数値となっている。特に人口に対する大型店数比率については県内でも上位にある。一方で飲食店数は5市平均値を下回り、市内での飲食する場が少ない状況となっている。

(9) 社会保障



- ・【国民健康保険料(税)(1人当たり調定額)】平成28年度時点
本市は、5市平均値を上回る。
- ・【要介護(要支援)認定比率(65歳以上)】平成29年4月末日時点
本市は、5市の中で平均的な数値となっている。
- ・【民生委員(児童委員)数(人口1万人当たり)】平成29年3月31日時点
本市は、5市平均値を下回る。
- ・【生活保護被保護者数(人口千人当たり)】平成28年度時点
本市は、5市の中で生活保護を受ける人の比率が高い状況となっている。
- ・【老人クラブ加入率】平成29年3月31日時点
本市は、5市平均値を下回る。
- ・【保育所保育士数(人口1万人当たり)】平成29年4月1日時点
- ・【保育所入所待機児童数】平成29年4月1日時点
本市は、保育所保育士数が5市平均値を下回り、待機児童数が多い状況となっている。

(10) 健康医療



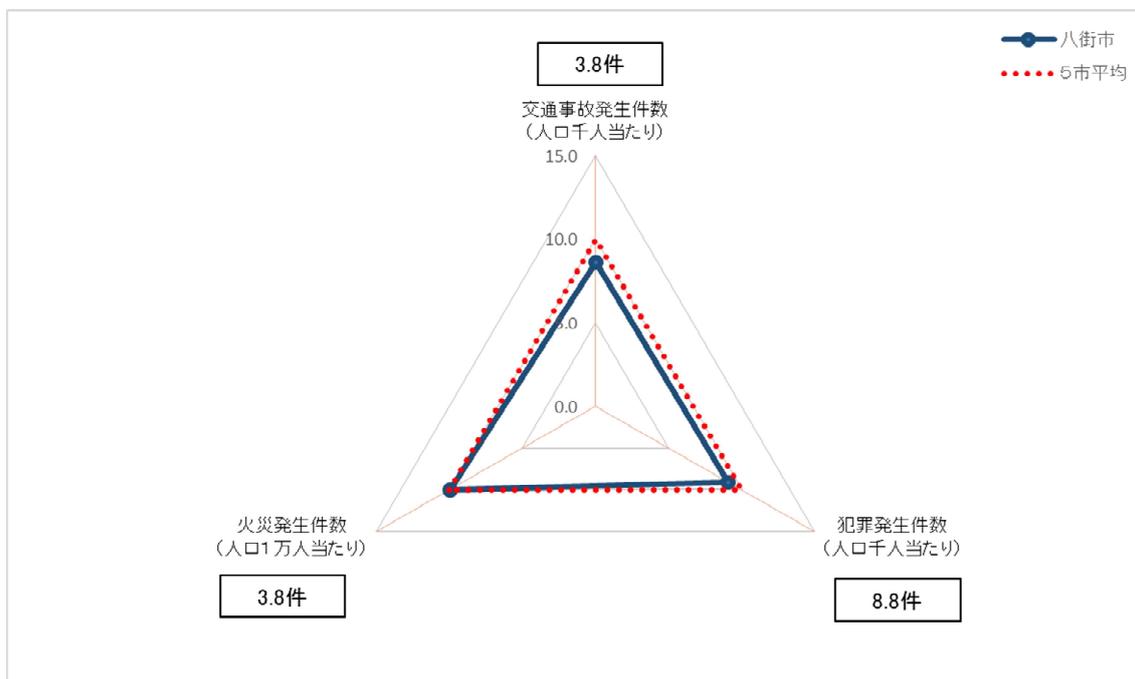
- ・【医療施設数 (人口1万人当たり)】平成28年10月1日時点
- ・【病床数 (人口千人当たり)】平成28年10月1日時点
- ・【医師数 (人口千人当たり)】平成28年12月31日時点
- ・【歯科医師数 (人口千人当たり)】平成28年12月31日時点
- ・【薬剤師数 (人口千人当たり)】平成28年12月31日時点
- ・【看護師数 (人口1万人当たり)】平成28年12月31日時点
- ・【薬局数 (人口1万人当たり)】平成29年3月31日時点

本市は、薬局数については、5市の平均的な数値だが、その他の全ての項目が下回っており、県内でも低い水準にある。

(参考) 県平均値

医療施設	11.0施設
病床数	11.2床
医師数	1.64人
歯科医師数	0.70人
薬剤師数	1.77人
看護師数	57.3人
薬局数	4.0所

(11) 安全



- ・【交通事故発生件数 (人口千人当たり)】平成 29 年時点
本市は、5 市の中でも事故発生件数が多く、県内でも事故発生件数が多い状況となっている。
- ・【犯罪発生件数 (人口千人当たり)】平成 29 年時点
本市は、5 市の中でも犯罪発生件数が多く、県内でも犯罪発生件数が多い状況となっている。
- ・【火災発生件数 (人口 1 万人当たり)】平成 28 年時点
本市は、5 市の中では平均的な数値となっている。

社会指標分析 一八街市と類似団体・近隣団体との比較一

分野	指標名	調査年次	指標算式	単位	八街市	県内順位	5市平均	乖離	総務省が示す類似団体・近隣団体				(参考) 県平均値	資料出所
									東金市	袖ヶ浦市	富里市	大網白里市		
人口	常住人口	2017	平成29年10月1日現在	人	69,315	22	57,938	11,377	60,051	61,639	49,997	48,686	115,850	県統計課「千葉県毎月常住人口調査」
	年少人口（15歳未満人口）比率	2017	年少人口（15歳未満人口）÷住民基本台帳人口	%	10.4	33	11.6	-1.2	11.3	13.5	11.5	11.1	11.0	県統計課「千葉県年齢別・町丁字別人口」
	生産年齢人口（15歳～64歳人口）比率	2017	生産年齢人口（15歳～64歳人口）÷住民基本台帳人口	%	62.5	9	61.5	1.0	61.5	60.9	63.2	59.4	58.0	県統計課「千葉県年齢別・町丁字別人口」
	老年人口（65歳以上人口）比率	2017	老年人口（65歳以上人口）÷住民基本台帳人口	%	27.0	38	26.9	0.1	27.2	25.6	25.3	29.5	30.9	県統計課「千葉県年齢別・町丁字別人口」
	人口増減率（平成28年～平成29年）	2017	人口増減数÷常住人口	%	-1.07	30	-0.17	-0.90	-0.48	0.80	0.44	-0.53	-0.54	県統計課「千葉県毎月常住人口調査」
	自然増減率（平成28年～平成29年）	2017	自然増減数÷常住人口	%	-0.59	26	-0.38	-0.21	-0.52	-0.04	-0.18	-0.58	-0.65	県統計課「千葉県毎月常住人口調査」
	社会増減率（平成28年～平成29年）	2017	社会増減数÷常住人口	%	-0.48	44	0.21	-0.69	0.03	0.84	0.62	0.06	0.11	県統計課「千葉県毎月常住人口調査」
	合計特殊出生率	2016	—	—	1.00	50	1.20	-0.20	1.22	1.44	1.28	1.05	1.24	県健康福祉指導課
都市形成	可住地面積比率	2017	面積から林野と主要湖沼面積を差し引いて算出	%	84.2	23	83.0	1.2	80.3	79.0	87.1	84.3	75.8	国土交通省「全国都道府県市町村別面積調査」 農林水産省「2015農林業センサス農村地域調査」
	人口密度（1km ² 当たり人口）	2017	人口÷総面積	人	924.9	19	802.8	122.1	673.8	649.3	927.9	838.3	1,700	県統計課「千葉県毎月常住人口調査」 国土交通省「全国都道府県市町村別面積調査」
	人口集中地区面積割合	2015	人口集中地区÷総面積	%	3.06	—	5.62	-2.56	3.36	18.73	1.80	1.17	—	総務省「都道府県・市町村の姿」（社会・人口統計体系）から算出
	人口集中地区人口割合	2015	人口集中地区人口÷常住人口	%	12.7	—	23.1	-10.4	23.8	50.7	17.6	10.7	—	総務省「都道府県・市町村の姿」（社会・人口統計体系）から算出
経済基盤	専業農家数比率（販売農家数当たり）	2015	専業農家数÷販売農家数	%	54.1	2	37.7	16.4	26.5	26.8	52.7	28.2	30.3	県統計課「2015年農林業センサス結果概要」
	年間商品販売額（1事業所当たり）	2016	年間商品販売額÷事業所数	百万円	271	17	256	15	218	224	392	177	222	県統計課「平成26年商売統計調査」
	事業所数（可住地面積1km ² 当たり）	2014	事業所数（民営）÷可住地面積	事業所	39.6	21	32.3	7.3	33.3	26.1	35.1	27.4	57.5	県統計課「平成26年経済センサス基礎調査」
	事業所規模（1事業所当たり従業員数）	2014	従業員数（民営）÷事業所数（民営）	人	7.8	37	9.0	-1.2	9.5	11.8	9.3	6.5	9.2	県統計課「平成27年経済センサス基礎調査」
	製造品出荷額等（1事業所当たり）	2016	製造品出荷額等÷事業所数（従業員4人以上）	百万円	330	48	2,701	-2,371	927	11,222	828	196	1,686	県統計課「工業統計調査結果」
行政基盤	財政力指数（平成25年度～平成27年度平均）	—	（基準財政収入額÷基準財政需要額）の3か年度の平均値	—	0.64	28	0.76	-0.12	0.69	1.08	0.77	0.62	0.71	総務省「市町村別決算状況調査」
	経常収支比率	2015	経常収支比率＝経常収入÷経常支出（経常＝一般財源等）	%	90.3	23	91.3	-1.00	92.9	90.9	91.3	91.1	88.5	総務省「市町村別決算状況調査」
	市町村民税の負担額（人口1人当たり）	2015	市町村民税歳入総額÷住民基本台帳人口	円	48,063	41	56,135	-8,072	53,166	71,870	54,957	52,619	59,687	総務省「市町村別決算状況調査」
	市町村民税の徴収率	2016	収入済額÷課税済額	%	82.2	54	88.7	-6.5	87.7	96.6	88.3	88.8	92.29	県市町村課「市町村税の収入額及び徴収率の概要」
	市町村職員数（人口千人当たり）	2017	職員数÷常住人口	人	7.7	40	9.3	-1.6	8.4	10.3	9.1	10.8	10.3	県市町村課
教育文化	小学校児童数（教員1人当たり）	2017	児童数÷本務教員数	人	14.4	25	15.2	-0.8	14.0	16.3	15.9	15.3	14.0	県統計課「学校基本調査結果報告書」
	中学校生徒数（教員1人当たり）	2017	生徒数÷本務教員数	人	12.9	24	13.1	-0.2	13.0	12.9	13.0	13.6	12.5	県統計課「学校基本調査結果報告書」
	小学校児童数（1学級当たり）	2017	児童数÷学級数	人	21.8	27	23.0	-1.2	22.2	24.6	23.0	23.6	21.3	県統計課「学校基本調査結果報告書」
	中学校生徒数（1学級当たり）	2017	生徒数÷学級数	人	24.5	37	27.1	-2.6	29.1	26.5	27.1	28.1	26.0	県統計課「学校基本調査結果報告書」
	図書館蔵書数（人口1人当たり）	2017	図書館蔵書数÷常住人口（H29.4.1）	冊	4.57	—	5.04	-0.47	2.49	11.04	4.00	3.08	—	千葉県公共図書館協会「千葉県の図書館」
	図書館貸出冊数（人口1人当たり）	2017	図書館貸出冊数÷常住人口（H29.4.1）	冊	4.39	—	5.22	-0.83	4.50	9.16	4.68	3.36	—	千葉県公共図書館協会「千葉県の図書館」
労働	完全失業率	2015	完全失業者数÷労働力人口	%	4.8	15	4.8	0.0	5.2	3.7	5.0	5.3	4.4	総務省統計局「平成27年国勢調査」
	就業率	2015	就業者数÷15歳以上人口	%	57.6	7	55.2	2.4	52.7	56.3	57.5	52.1	53.9	総務省統計局「平成27年国勢調査」
	女性就業率	2015	女性就業者数÷15歳以上女性人口	%	49.2	7	46.7	2.5	44.7	46.8	49.3	43.3	45.4	総務省統計局「平成27年国勢調査」

※指標の性質から数値の大小や調査年によって単純に善し悪しが判断できない場合がある。また、県内順位は指標の大小で決定しているため、順位が高ければ良いとは限らない。例）交通事故発生件数（人口千人当たり）

分野	指標名	調査年次	指標算式	単位	八街市	県内順位	5市平均	乖離	総務省が示す類似団体・近隣団体				(参考) 県平均値	資料出所
									東金市	袖ヶ浦市	富里市	大網白里市		
交流	昼夜間人口比率	2015	昼間人口÷夜間人口(常住人口)	%	80.8	—	87.1	-6.3	98.6	94.8	85.9	75.4	—	総務省統計局「平成27年国勢調査」
	観光客数	2016	—	千人	86	—	724	-638	1,351	1,728	116	341	—	千葉県統計年鑑
	千葉市への通勤通学者比率	2015	千葉市への15歳以上通勤通学者数÷15歳以上通勤通学者総数	%	12.8	7	11.6	1.2	13.1	8.1	4.4	19.6	6.9	総務省統計局「平成27年国勢調査」
	東京都への通勤通学者比率	2015	東京都への15歳以上通勤通学者数÷15歳以上通勤通学者総数	%	5.8	23	6.6	-0.8	4.7	6.1	5.1	11.1	10.9	総務省統計局「平成27年国勢調査」
居住環境	住宅地価格	2017	地価調査による	千円/㎡	18.4	34	28.8	-10.4	23.1	39.7	39.5	23.2	47.2	県用地課「地価調査」
	持ち家比率	2015	持ち家世帯数÷住宅に住む一般世帯数	%	80.2	27	76.5	3.7	71.5	75.1	71.2	84.4	77.9	総務省統計局「平成27年国勢調査」
	水道普及率	2017	給水人口÷常住人口	%	57.3	53	88.1	-30.8	100.0	99.0	84.6	99.5	92.0	県水政課
	下水道普及率	2016	処理人口÷住基人口(H29.3.31現在)	%	27.5	—	49.1	-21.6	40.8	68	60.1	49.3	—	千葉県統計年鑑
	都市公園面積(人口1人当たり)	2015	都市公園面積÷住基人口(H29.3.31現在)	㎡/人	0.78	—	4.81	-4.03	5.37	12.85	2.85	2.19	—	県公園緑地課
	郵便局数(人口1万人当たり)	2016	郵便局数÷常住人口	局	0.85	41	0.99	-0.14	1.33	1.15	0.81	0.81	1.94	総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた」
	ごみ排出量(1人1日当たり)	2015	ごみの総排出量÷ごみの計画処理区域人口÷365日	グラム	927	24	933	-6	932	952	977	879	918	県循環型社会推進課「清掃事業の現況と実績」
	市町村道比率(1k㎡当たり)	2013	市町村道実延長÷市町村面積	m	6,585	36	7,718	-1,133	9,328	4,884	7,286	10,505	8,473	総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた」
	小売店数(人口千人当たり)	2014	小売店数÷常住人口	事業所	5.91	31	5.71	0.20	7.65	4.81	6.46	4.72	7.45	総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた」
	大型小売店数(人口1万人当たり)	2014	大型小売店数÷常住人口	事業所	1.84	7	1.35	0.49	1.31	0.99	1.60	1.01	1.61	総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた」
飲食店数(人口千人当たり)	2014	飲食店数÷常住人口	事業所	2.59	46	3.27	-0.68	4.33	3.04	3.76	2.62	4.05	総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた」	
社会保障	国民健康保険料(税)(1人当たり額)	2016	—	円	97,447	25	95,802	1,645	96,250	92,252	92,435	100,624	97,582	県保険指導課
	要介護(要支援)認定比率(65歳以上)	2017	要介護(要支援)認定者数(第1号被保険者)÷第1号被保険者数	%	13.0	48	13.4	-0.4	15.3	13.7	10.7	14.2	15.3	厚生労働省「介護保険事業状況報告月報(暫定版)」
	民生委員(児童委員)数(人口1万人当たり)	2017	民生委員数÷常住人口	人	12.7	45	15.1	-2.4	18.2	14.1	14.1	16.5	19.4	県健康福祉指導課
	生活保護被保護者数(人口千人当たり)	2016	被保護実人員(1か月平均)÷常住人口	人	14.0	11	10.0	4.0	14.2	5.6	9.9	6.3	10.3	県健康福祉指導課
	老人クラブ加入率	2017	老人クラブ会員数÷60歳以上人口	%	6.3	30	7.3	-1.0	10.9	4.1	4.8	10.6	8.4	県高齢者福祉課
	保育所保育士数(人口1万人当たり)	2017	保育士数÷常住人口	人	24.3	46	28.9	-4.6	22.5	41.3	23.7	32.7	33.0	県子育て支援課
	保育所入所待機児童数	2017	平成29年4月1日現在	人	12	—	7	5	1	1	13	7	—	県子育て支援課
健康医療	医療施設数(人口1万人当たり)	2016	医療施設数÷常住人口	施設	8.8	46	10.5	-1.7	11.4	10.8	10.0	11.4	11.0	県健康福祉指導課
	病床数(人口千人当たり)	2016	病床数÷常住人口	床	7.4	33	8.7	-1.3	12.2	7.5	11.5	5.0	11.2	県健康福祉指導課
	医師数(人口千人当たり)	2016	医師数÷常住人口	人	0.69	44	1.11	-0.42	1.70	1.06	1.00	1.10	1.64	県健康福祉指導課
	歯科医師数(人口千人当たり)	2016	歯科医師数÷常住人口	人	0.53	45	0.63	-0.10	0.75	0.72	0.56	0.57	0.70	県健康福祉指導課
	薬剤師数(人口千人当たり)	2016	薬剤師数÷常住人口	人	1.16	43	1.65	-0.49	2.20	1.86	1.64	1.39	1.77	県健康福祉指導課
	看護師数(人口1万人当たり)	2016	就業看護師数÷常住人口	人	21.9	47	46.3	-24.4	72.0	50.5	47.7	39.6	57.3	県医療整備課
	薬局数(人口1万人当たり)	2017	薬局数÷常住人口	所	3.8	25	3.9	-0.1	4.7	3.3	3.8	3.7	4.0	県業務課
安全	交通事故発生件数(人口千人当たり)	2017	発生件数÷常住人口	件	3.8	7	3.3	0.5	3.0	3.0	4.3	2.3	3.0	県警察本部交通部「交通事故統計ちば」
	犯罪発生件数(人口千人当たり)	2017	刑法犯認知件数÷常住人口	件	8.8	16	8.0	0.8	10.2	7.9	7.2	5.9	8.0	県警察本部「犯罪の概要」
	火災発生件数(人口1万人当たり)	2016	火災発生件数÷常住人口	件	3.8	29	3.8	0.0	4.1	4.1	2.2	4.7	4.3	県防災危機管理部消防課「消防防災年報」

※指標の性質から数値の大小や調査年によって単純に善し悪しが判断できない場合がある。また、県内順位は指標の大小で決定しているため、順位が高ければ良いとは限らない。例)交通事故発生件数(人口千人当たり)

(参考)八街市課題マップ

八つの街づくり	施策の大綱	第2章 市民意向調査(P11~)		第3章 まちづくり活動団体アンケート(P53~)		第4章 区長アンケート(P69~)		第5章 子育て世代アンケート(P81~)		第6章 新成人と市長との懇談会(P89~)		第7章 八街っ子懇談会(P93~)		第8章 まちづくり活動団体懇談会(P97~)		第9章 市民懇談会(P107~)		
		優先順位	評価	優先順位	意見	優先順位	意見	優先順位	意見									
一の街 めざします！ 便利で快適な街	秩序ある土地利用		優先度上位 満足度下位	3位	八街駅北口開発 コンパクトシティの推進 複合駅周辺の整備	3位	土地利用の再構築 自然美と人工美の調和するまちづくり 複合駅周辺の整備								複合駅周辺の活性化 コンパクトシティの推進		コンパクトシティの推進	
	道路の体系的整備	1位	優先度上位 満足度下位	2位	道路・歩道整備 右折ライン・番号整備	1位	U字溝整備 パイパス整備	2位	住野十字路の道路拡張 歩道整備・ガードレールの設置 U字溝整備		歩道整備による散歩しやすいまちづくり ガードレールの設置		見通しの悪い道路にカーブミラーの設置 八街十字路の道路整備及びガードレールの設置					
	移動を支える公共交通の充実	2位	優先度上位 満足度下位		ふれあいバスの運行充実 高齢者外出支援タクシーの改善	2位	ふれあいバスの運行充実	1位	柳武本線の複線化 芝山千代田～八街路線開通		JR庄倉～成東間の増便 ふれあいバスの運行充実 市外まで移動できるバスの新設		スポーツプラザまでの直通バスの運行 車いすの利用可能なバス停と駅ホームの整備				高齢者外出支援タクシー利用助成事業の改善 ふれあいバス運行の充実	
二の街 めざします！ 安全で安心な街	人にやさしいまちづくりの推進		優先度上位 満足度下位															
	交通安全の推進		優先度上位 満足度下位						通学路の確保・見直し		生活道の外灯整備		トリックアートの手法を用いた道路標識の導入 押しボタン式信号の色が変わる時間の十分な確保				通学路の交通安全対策	
	消防・救急体制の充実		優先度上位 満足度上位															
	防災体制の充実		優先度上位 満足度上位		福祉避難所の明確化 防災意識の向上 防災に対する助成金制度		自主防災組織の推進 災害に強いまちづくり											災害弱者対策の強化
	防犯体制の充実		優先度上位 満足度上位															
三の街 めざします！ 健康と思いやりにあふれる街	消費者行政の充実		優先度下位 満足度上位															
	生涯にわたる健康づくり		優先度上位 満足度上位															市内医療機関のPR強化 地域単位での調理教室の実施
	地域で支え合う福祉の推進		優先度上位 満足度上位															
	笑顔あふれる子育てへの支援		優先度上位 満足度上位		産院誘致		保育環境の強化 子育て支援策の充実		学童保育の充実		児童館を活用した異世代交流							子ども達の遊び場の確保(児童館整備)
	生きがいにつながる高齢者福祉の充実		優先度上位 満足度上位		要支援体制の充実 老人介護施設の増築 CCRC構想の実現													高齢者の力を借りたまちづくりの推進
四の街 めざします！ 豊かな自然と共生する街	めくもりのある障害者福祉の充実		優先度上位 満足度上位															市の障害者福祉サービス及び今後の計画
	緑の保全と創出		優先度下位 満足度上位		子ども達が安心して遊べる 場所を創設 砂埃対策				けやきの森公園に遊具設置									自然環境美化によるまちおこし 魅力ある公園整備
	生活環境の整備	3位	優先度上位 満足度下位		空き家の活用 上下水道整備		上下水道整備		都市ガス・上下水道整備		近居専用住宅の開設		空き家対策の実施 通学路などの防犯灯の整備 ポイ捨て禁止看板の設置及び環境美化呼びかけの実施					市営住宅を活用した移住定住策 排水問題への行政からの積極的指導の実施
	循環型社会の推進		優先度上位 満足度下位															衣類、食用油の再利用などリサイクルの推進
	子どもの教育・健全育成の充実		優先度上位 満足度下位	1位	空き教室の活用 保育園・児童施設の充実 学社融合の実現		学校施設の早期改修		学区の見直し	3位	放課後を利用した学習支援		スポーツプラザに遊具の整備 学習ボランティアの配置					学校教育と社会教育の連携強化 不登校児への対応方法の見直し
五の街 めざします！ 心の豊かさを感じる街	自ら学ぶ生涯学習・スポーツの推進		優先度下位 満足度上位		スポーツ人材育成・環境整備		公式試合開催が可能な 総合運動場の整備											グラウンド・用具の整備 学区単位でのスポーツ大会の開催
	市民文化の創出と継承		優先度下位 満足度上位		文化施設の建設				イベントブースの設置		文化ホールの建設		文化ホールの建設					文化ホールの建設
	豊かな心を育む交流の推進		優先度下位 満足度上位		新規イベントによるまちおこし													市内在住外国人への対応強化
	男女共同参画の推進		優先度下位 満足度上位															
	時代に变化に対応した農業の推進		優先度上位 満足度下位		農業後継者育成・支援 耕作放棄地対策 農業法人誘致		農業後継者不足対策											
六の街 めざします！ 活気に満ちあふれる街	街の活力を生む商工業の推進		優先度上位 満足度下位		企業誘致 シンジャーエール工場の誘致 企業誘致セールス部の設置		企業・大学誘致 商業施設の充実 道の駅建設		企業誘致		大型ショッピングモールの誘致		八街ブランドの確立・ピーちゃんナッチャン活用した商品開発 道の駅の建設及び商店街看板の設置					
	まちに賑わいをもたらす産業の振興		優先度上位 満足度下位		就労・雇用増加対策		就労・雇用増加対策											子ども達を対象とした農業教室や体験授業の実施
	市民と行政の協働の推進		優先度下位 満足度下位		市民協働の意識醸成		自助・共助・公助によるまちづくり											協働のまちづくりの推進 市民と行政職員の交流の場(懇談会の実施) コンビニとの協力による相談窓口の設置
七の街 めざします！ 市民とともにつくる街	コミュニティの育成		優先度下位 満足度上位		困りごと相談窓口の開設		自治会活動財源の確保 自治会業務の簡素化 区制度の見直し		地区役員確保の廃止 転入者のハードルを下げる				子育てで困っている保護者のためのコミュニティ推進					区への加入促進
	市民によるまちづくり活動の推進		優先度下位 満足度上位		サポートセンターの設置 活動団体の報告会の実施				参加しやすい仕組みづくり 自分達のまちは自分達で 作るという意識の啓発				市民主体のゴミ拾い大会の実施 部活動における地域人材の活用					市民が自らまちづくりを考えるシステムづくり
	効率的な行政運営		優先度上位 満足度下位				財政力の豊かな市政運営											シンクタンクの設置
八の街 めざします！ 市民サービスの充実した街	市民と行政の情報共有		優先度下位 満足度上位									SNSを活用した情報発信力の強化						市広報紙の冊子化 情報発信力の強化 SNSの活用
	窓口サービスの充実		優先度下位 満足度上位		「すぐやる課」の設置		南部出張所の開設 窓口対応の改善						SNSを活用した外国人への情報発信 窓口のワンストップサービスの導入					
	市の魅力発信		優先度下位 満足度下位		観光大使の設置								同僚・近隣住民と共働き支援制度の創設 三世同居経済的援助制度					市長によるフェイスブックなどのSNSを活用した情報発信 農業や観光資源を活用した新たな八街市の魅力発信 市内イベントの取材活動の実施

ひと・まち・みどりが輝く ヒューマンフィロドヤちまた